

HYOGO VISION 2050

Report

「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査令和4年調査結果

誰もが希望を持って生きられる

一人ひとりの可能性が広がる

『躍動する兵庫』

兵庫県

兵庫県では、2050年頃の兵庫のめざす姿を描く「ひょうごビジョン2050」を令和4年3月に策定しました。

10,000名を超える県民の声から、県民が共有する5つの社会と15の将来像を描き出しています。

私たちがめざすのは、「誰もが希望を持って生きられる一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」です。

「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを両輪にして『躍動する兵庫』を実現していきます。

ビジョンを実現するためには、県民、企業、団体など、多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む連携が欠かせません。ビジョンに共感し、共に行動する連携の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。

このレポートは、県民意識の動向やビジョンの推進状況、県の施策などについて広く知っていただき、より良い未来の実現のために考え、取組に参画していただくため、「兵庫のゆたかさ指標」による県民意識調査の結果をダッシュボード化して公表するものです。

兵庫県では、ビジョンが指し示す将来像ごとに、統計や事業量では測りきれない生活の質や豊かさを明らかにするための主観指標「兵庫のゆたかさ指標」を設定し、指標による県民意識調査をもとに、ビジョンの実現状況の点検・評価を行っています。

この調査は毎年度実施し、県の施策に反映させていくとともに、レポートとして公表していきます。各地域、各分野で取組を進めていく際の参考にさせていただきたいと考えています。



ポータルサイト



YouTube チャンネル



目次

1	ひょうごビジョン 2050 の概要	1	トピックス 孤独・孤立を生まない社会へ	29
2	兵庫のゆたかさ指標	3	安心して子育てできる社会	30
3	令和4年「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査結果	5	トピックス 子育てと両立できる労働環境	32
(1)	総合的満足度	6	安心して長生きできる社会	33
	トピックス 公民連携による『躍動する兵庫』の実現	8	(5) 自立した経済が息づく社会	35
(2)	自分らしく生きられる社会	9	循環する地域経済	36
	自由になる働き方	10	トピックス 次世代成長産業等の立地支援強化	38
	トピックス ワーク・ライフ・バランスの推進	12	進化する御食国	39
	居場所のある社会	13	活動を支える確かな基盤	41
	世界へ広がる交流	15	(6) 生命の持続を先導する社会	43
	トピックス ひょうごフィールドパビリオンの展開	17	カーボンニュートラルな暮らし	44
(3)	新しいことに挑戦できる社会	18	トピックス 水素社会の実現	46
	みんなが学び続ける社会	19	分散して豊かに暮らす	47
	わきあがる挑戦	21	トピックス 地方回帰ーひょうご移住プロジェクトの推進	49
	トピックス スタートアップの支援	23	社会課題の解決に貢献する産業	50
	わきたつ文化	24	トピックス 社会課題を解決する産業	
(4)	誰も取り残されない社会	26	ー公民連携によるSDGsの推進	52
	みんなが生きやすい地域	27		

1 ひょうごビジョン 2050 の概要

- 2022年3月、社会が大きく変化する中、兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため、「ひょうごビジョン 2050」を策定しました。
- 10,000人を超える県民の声を聴取し、県民との意見交換を重ねながら検討を進めました。

【ビジョンの概要】

基本的な性格

- 県民が共にめざす姿を描く
- 県民が主役になり、地域から取り組む
- 変化を生み出し、成長する

展望年次

- 私たちの子や孫が生きる30年先の2050年頃のめざす姿を描く

県政上の位置づけ

- 県が進める政策の羅針盤として運用

全県と地域

- 全県ビジョンと一体的に9つの地域ごとの地域ビジョンを策定

【策定の視点】

県民の思い

- 多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を
- 自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を
- 人と人のつながりを育み、共に歩む「包摂」を
- 未来を担う次代のために社会の「持続」を

大事にしたい マインド 「開放性」

- 県民の思いに共通するのは、「開放性」の高い社会への強い願い
- 「開放性」は兵庫ならではの強みであり、今後も伸ばすべき特性
- 兵庫の未来は「開放性」をキーワードに描き、取り組むものに

ビジョンの 描き方

- 人口減少、テクノロジーの進化など社会変化の潮流を前提にして、未来社会で営まれる生活や社会経済活動のめざす姿を描く

ひょうごビジョン 2050 が描く「兵庫のめざす姿」

2050年の
兵庫の姿

誰もが希望を持って生きられる
一人ひとりの可能性が広がる

包摂

×

挑戦



躍動

『躍動する兵庫』

5つのめざす社会

I 自分らしく生きられる社会	① 自由になる働き方 ② 居場所のある社会 ③ 世界へ広がる交流
II 新しいことに挑戦できる社会	④ みんなが学び続ける社会 ⑤ わきあがる挑戦 ⑥ わきたつ文化
III 誰も取り残されない社会	⑦ みんなが生きやすい地域 ⑧ 安心して子育てできる社会 ⑨ 安心して長生きできる社会
IV 自立した経済が息づく社会	⑩ 循環する地域経済 ⑪ 進化する御食国 ⑫ 活動を支える確かな基盤
V 生命の持続を先導する社会	⑬ カーボンニュートラルな暮らし ⑭ 分散して豊かに暮らす ⑮ 社会課題の解決に貢献する産業

「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを両輪にして『躍動する兵庫』を実現していきます。

2 兵庫のゆたかさ指標

(1) 趣旨

ひょうごビジョン 2050 が掲げる将来像ごとに、統計や事業量では測りきれない生活の質や豊かさを明らかにするための主観指標「兵庫のゆたかさ指標」を設定し、指標による県民意識調査の結果をもとに、ビジョンの推進状況を点検・評価する。

(2) 調査方法（県民意識調査）

- ・ 設 問 数 : 48 項目（全体評価（4 項目）及びめざす姿ごとの評価（各 2～3 項目）で構成）
- ・ 調査期間 : 令和 4 年 8 月 19 日から 9 月 16 日
- ・ 対 象 者 : 県内に居住する満 18 歳以上の男女個人 5,000 人（無作為抽出）
- ・ 標本抽出及び集計方法
 - ① 住民基本台帳に記載された県民を対象
 - ② 10 の地域（県民局単位）ごとに 500 の標本数を、市町別・男女別・年齢 10 歳階級別の母集団構成比に応じて配分
 - ③ 地域ごとの有効回答数について、重み付け集計により、全県の母集団構成比を復元
- ・ 回 収 率 : 45.5% (2,275/5,000)
- ・ 有効回答数 : 2,250

(3) 評価方法

調査項目ごとに 5 段階で得られた回答（1. そう思う～5. そう思わない 等）を肯定的なものから 5 点～1 点に点数化し、これを 10 点満点に換算した（最高点 10 点、中間点 6 点、最低点 2 点）

【県民意識調査の設問項目】

	めざす姿		調査項目(ゆたかさ指標)
全体評価	総合的 生活満足度	1	あなたは、全体として、今の生活に満足していますか。
		2	あなたは、全体として、将来の生活に不安を感じますか。
		3	あなたは、住んでいる地域のことに関心がありますか。
		4	あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか。
自分らしく 生きられる社会	①自由な 働き方	5	多様な働き方を選択しやすい社会だと思いますか。 キーワード:テレワーク、在宅勤務、フレックスタイム、副業など
		6	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思いますか。
		7	あなたは、しごとと自分の生活の両立ができていますか。
	②居場所 のある社会	8	あなたには、職場や学校、家庭以外に、安心感や充実感を得られる場がありますか。 キーワード:サークル、スポーツクラブ、コミュニティカフェなど
		9	あなたは、住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがありますか。
		10	あなたには、知人や親戚など頼りになる人が近所にいますか。
	③世界へ 広がる交流	11	お住まいの地域には、自慢したい地域の宝(風景や産物、文化など)がありますか。
		12	あなたは、外国の文化や人々と接してみたいと思いますか。
		13	お住まいの地域は、外国人にも暮らしやすい環境が整っていると思いますか。
	新しいこと に挑戦できる社会	④みんなが 学び続ける 社会	14
15			あなたには、目的を持って学んでいるものがありますか。
16			新たな知識や技能を身につけたり、専門性をみかくために、だれもが学びたいときに学び直すことのできる社会になっていると思いますか。
⑤わきあがる 挑戦		17	若者が希望を持てる社会だと思いますか。
		18	商売、事業を新たに始めやすい社会だと思いますか。
		19	あなたは、ボランティアなどで社会のために活動していますか、またはしてみたいですか。
⑥わきたつ 文化		20	あなたは、暮らしの中でスポーツをしたりスポーツ観戦を楽しんだりしていますか。
		21	あなたは、暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っていますか。
		22	お住まいの地域では、伝統芸能・文化などが受け継がれていると思いますか。 キーワード:祭りなどの年中行事、民謡・民舞、能、歌舞伎、伝統工芸など

	めざす姿		調査項目(ゆたかさ指標)
誰も取り 残され ない社会	⑦みんな が生きやす い地域	23	孤立しがちな人を生まないように気をかけあう社会であると感じますか。
		24	ハラスメントの予防・解決に向けた取組が社会全体として進んでいると思いますか。 キーワード:セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントなど
		25	お住まいの地域には、年齢、性別、障害の有無などに関わりなく、暮らしやすい環境が整っていると思いますか。
	⑧安心して 子育てでき る社会	26	子育てとの両立がしやすい労働環境が整っている社会だと思いますか。
		27	お住まいの地域には、地域で子どもを見守り育てる環境がありますか。
		28	お住まいの地域では、安心して楽しく子育てできると思いますか。
	⑨安心して 長生きでき る社会	29	あなたは、心身ともに健康であると感じますか。
		30	お住まいの地域には、安心できる医療の環境が整っていると思いますか。
		31	お住まいの地域は、高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だと思いますか。
自立した 経済が息づ く社会	⑩循環する 地域経済	32	お住まいの地域の駅前や商店街に活気があると思いますか。
		33	お住まいの地域の企業に活気があると思いますか。
		34	お住まいの地域には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っていますか。
	⑪進化する 御食国	35	地元や県内の農林水産業に活気があると思いますか。
		36	あなたは、地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っていますか。
		37	あなたは、食品廃棄物をできるだけ出さない暮らしを心がけていますか。 キーワード:食品ロス、フードロス、食べ残し、賞味期限など
		38	あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか。
⑫活動を 支える確か な基盤	39	お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせると感じますか。	
	40	お住まいの地域の公共交通は便利であると感じますか。	
	生命の 持続を先導 する社会	⑬カーボン ニュートラ ル暮らし	41
42			あなたは、日頃から節電・省エネに取り組んでいますか。
43			あなたは、製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んで感じますか。
⑭分散して 豊かに暮ら す		44	あなたは、住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか。
		45	あなたは、住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと感じますか。
		46	ICT(情報通信技術)などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると感じますか。 キーワード:ビデオ通話、テレワーク、オンラインショッピング、オンライン診療など
⑮社会課題 の解決に 貢献する 産業	47	お住まいの地域には、生活の不便さを補うさまざまなサービスが増えていると感じますか。 キーワード:買物代行、移動販売、配食サービス、送迎サービスなど	
	48	兵庫県は、社会を先導する新しい産業が活発な県だと思いますか。 キーワード:先端医療、ロボット、環境、エネルギー、新素材、IT、航空宇宙産業など	

3 令和4年「兵庫のゆたかさ指標」 県民意識調査結果



全体評価 総合的満足度について

評価の概要

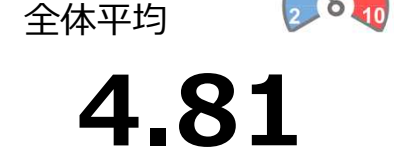
- 「全体として今の生活に満足か」に対する回答の平均は7.15と、個別分野の意識に関わらず、総合的な満足度としては高い水準と言える。
- 一方で、「将来の生活に不安を感じるか」については、60代以下のすべての世代が4点台で、平均4.81と、少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢、物価高騰など、不透明な社会経済の先行きへの不安などもあり、低い水準にとどまっている。
- 「住んでいる地域のことに関心があるか」については、7.53と高く、また、「住んでいる地域にこれからも住み続けたいか」については8.29と、48の設問中もっとも高い評価となった。

■兵庫のゆたかさ指標

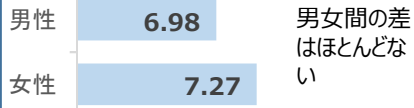
設問 1
あなたは、全体として、今の生活に満足していますか。



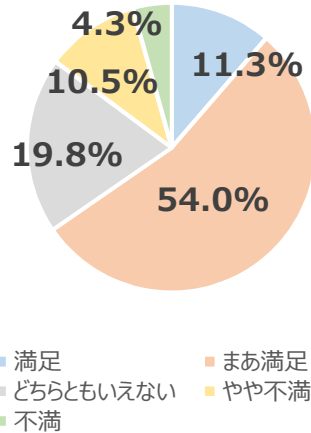
設問 2
あなたは、全体として、将来の生活に不安を感じますか。



性別



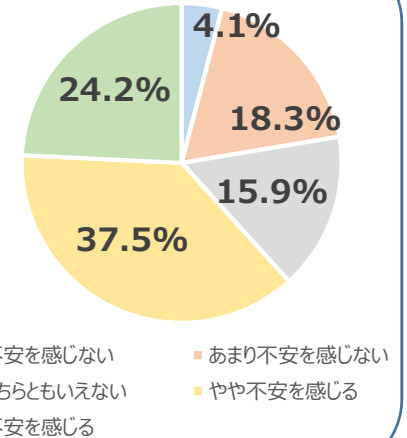
回答割合



性別



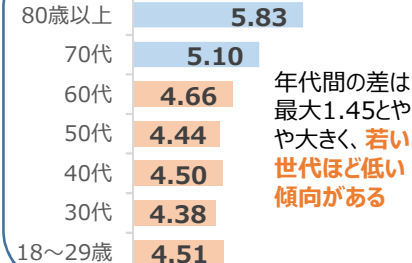
回答割合



年齢別

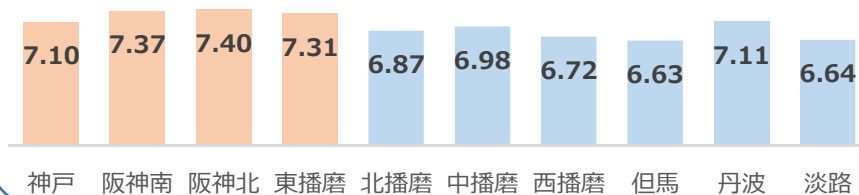


年齢別



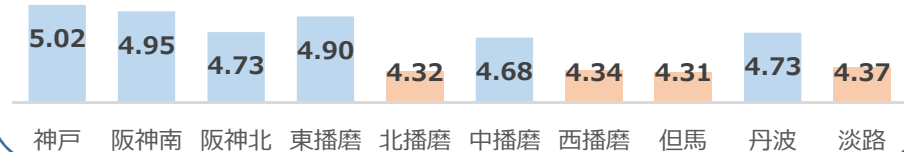
地域別

地域による差は最大0.77と少ない。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い



地域別

地域による差は最大0.71と少ない。ばらつきはあるが、傾向としては地方部が低い





全体評価 総合的満足度について

■兵庫のゆたかさ指標

設問3

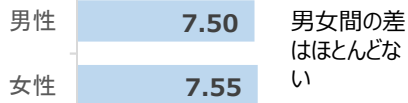
あなたは、住んでいる地域のことに
関心がありますか

全体平均

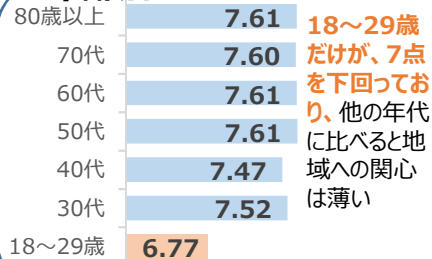
7.53



性別



年齢別



地域別

地域による差は最大0.80と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い



設問4

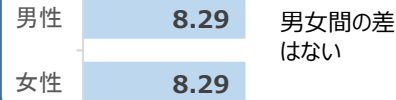
あなたは、住んでいる地域にこれから
も住み続けたいですか

全体平均

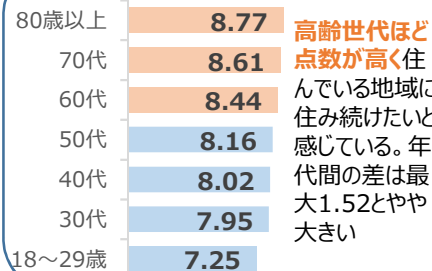
8.29



性別

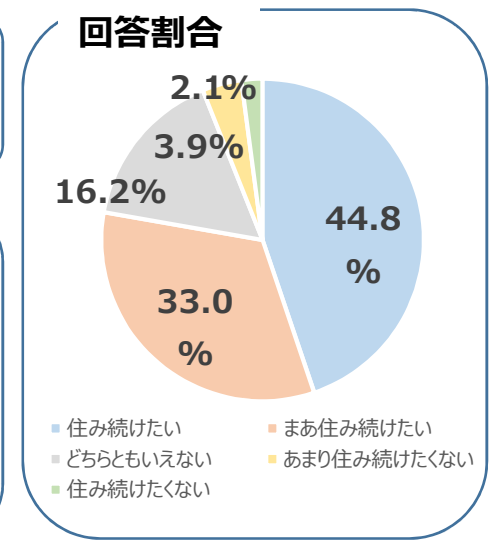
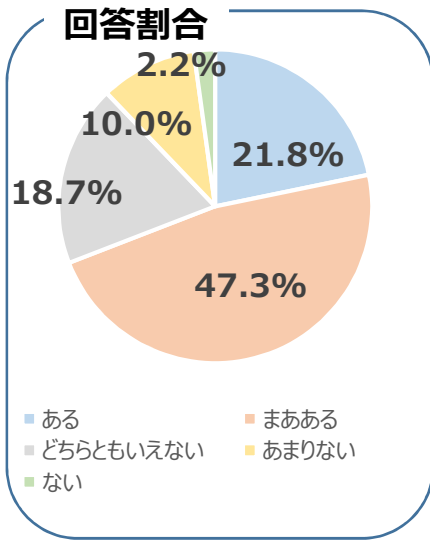
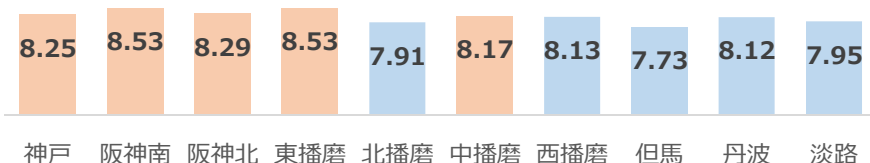


年齢別



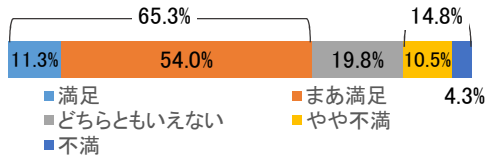
地域別

地域による差は最大0.80と小さい。傾向としては都市部が高い

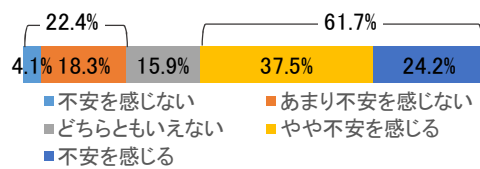


トピックス 公民連携による『躍動する兵庫』の実現

問1 あなたは、全体として、今の生活に満足していますか



問2 あなたは、全体として、将来の生活に不安を感じますか



全体として、今の生活に「満足」「まあ満足」と回答した人の割合は65.3%で、「不満」「やや不満」を大きく上回っています。しかし、全体として、将来の生活に「不安を感じる」「やや不安を感じる」と回答した人が61.7%と、「不安を感じない」「あまり不安を感じない」を大きく上回っています。

◆ひょうごビジョン 2050 の策定

人口減少、不安定な社会経済、急激な技術革新、災害や感染症、進む温暖化など、先行きの見通せない時代を迎えています。

こうした新たな課題に対応し、より良い未来を創るためには、自らめざすべき将来像を描き、その実現に向け、それぞれが取組を進めていく必要があります。

ひょうごビジョン 2050 は、10,000 人を超える県民の声を聴取し、意見交換を重ねながら検討を進め、県民が共にめざす兵庫の姿を描いています。

ビジョン策定のプロセス

- ビジョンを語る会
- ビジョン出前講座
- 地域未来フォーラム
- オンラインでの意見換
- グループインタビュー
- 個別ヒアリング
- 県民意識調査



◆実現に向けての基本姿勢

ビジョンの主役は一人ひとりの県民であり、ビジョンに共感し、兵庫に関わるすべての人です。ビジョンを実現するためには、社会を構成する多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む連携が欠かせません。共に行動する連携の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。

【実現に向けての4つの基本姿勢】

☑ 大きな連携の輪をつくる

- 試行錯誤のプロセスを楽しむ
- 地球規模で考え、足元から行動する
- パーチャルを使いこなし、リアルを大切に

公民連携の推進

○ ひょうご公民連携プラットフォーム

県庁各部署と企業等が連携し、公民連携による地域活性化や情報発信などの取組を推進



○ 包括連携協定などによる連携推進

包括連携協定



「ひょうご公民連携プラットフォーム」により、民間企業との継続的・包括的な連携協力を推進

公共施設等への事業誘致



都市公園で民間企業が収益事業を行う区域を許可。独立採算型の優良な投資を誘致(ニジケンノリ)

ひょうご TECH イノベーションプロジェクト



県内の地域課題の解決を図るため、起業家や事業者の情報通信技術等を活用した協働実証を実施

SDGs 公民共創プロジェクト



県と県内経済団体が連携し、10のSDGs 共創重点テーマをベースに、共創事業を展開

グリーンボンド



環境事業に用途を限った「グリーンボンド」県債を発行。200億円分が完売

企業版ふるさと納税



地域創生に寄与する県施策に対して民間企業の寄附を促進(税控除の特例措置)

5つのめざす社会



自分らしく生きられる社会

めざす姿①

自由になる働き方 いろいろな働き方を自分の意思で選ぶことができ 自分なりの役割を見出せる社会

めざす姿②

居場所のある社会 みんなに人とつながれる居場所があり 孤独を感じないで暮らせる社会

めざす姿③

世界へ広がる交流 五国の多彩な魅力が人をひきつけ 国内外との双方向の交流が活発に行われる社会



自分らしく生きられる社会

自由になる働き方

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「多様な働き方を選択しやすい社会か」はどの地域も4～5点台にとどまっている。
- 「自分にあった就職や転職がしやすい社会か」についても同様に、すべての地域で4～5点台と県民の実感は低い水準で、経済雇用情勢の不透明感や、雇用の流動性が高まっていない現状が反映されている。
- 「しごとと自分の生活の両立ができてきているか」については平均6.84とやや高めの評価となっており、ワーク・ライフ・バランスの実現については、ある程度の実感がある。

設問5

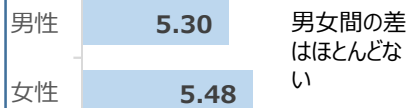
多様な働き方を選択しやすい社会だと思いますか

全体平均

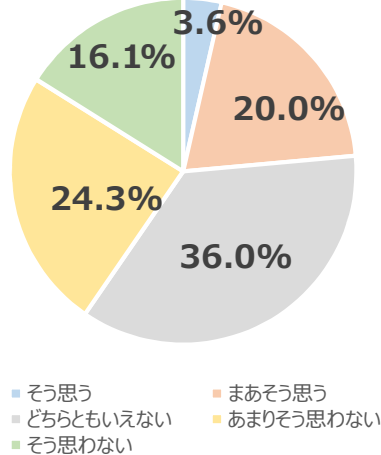
5.41



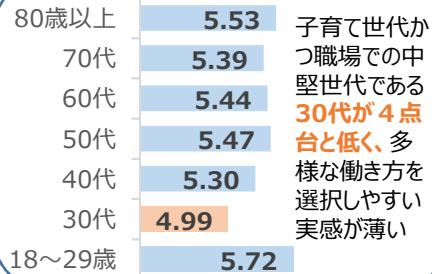
性別



回答割合

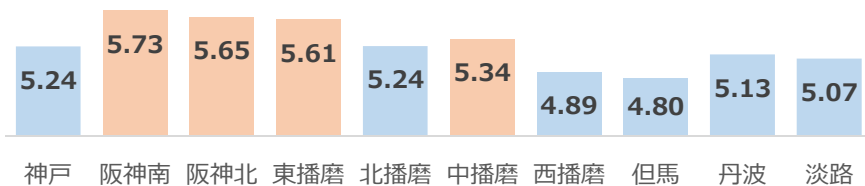


年齢別



地域別

地域による差は最大0.93と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い



設問6

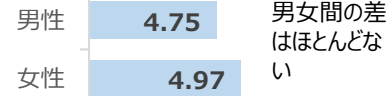
自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思いますか

全体平均

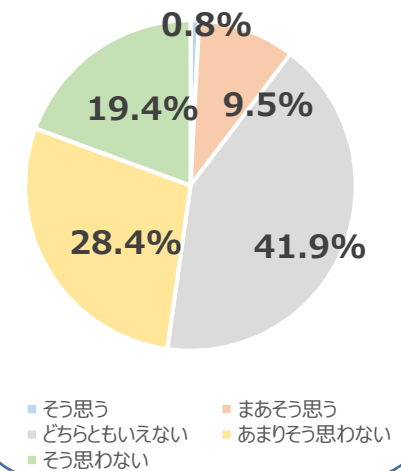
4.88



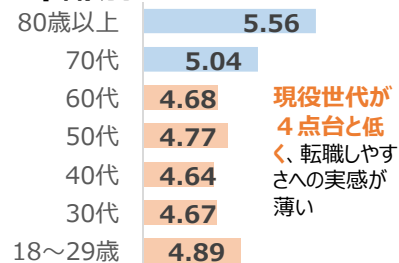
性別



回答割合

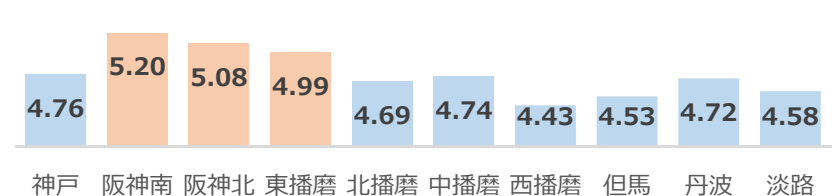


年齢別



地域別

地域による差は最大0.77と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い





自分らしく生きられる社会

自由になる働き方

■兵庫のゆたかさ指標

設問 7

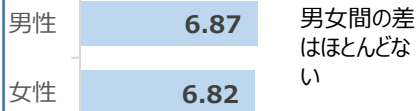
あなたは、しごとと自分の生活の両立ができていますか

全体平均

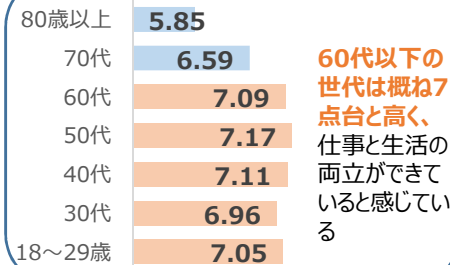


6.84

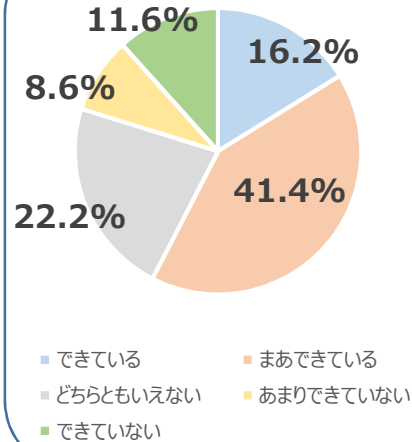
性別



年齢別

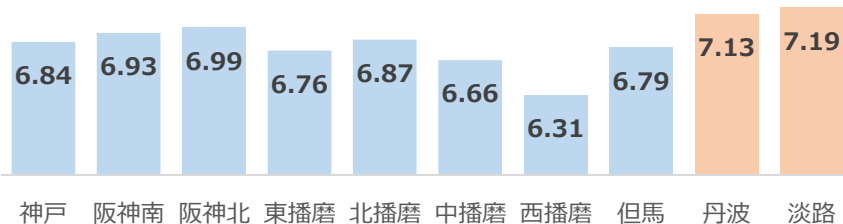


回答割合



地域別

地域による差は最大0.88と小さい。丹波地域、淡路地域が7点台と高い



■主な県の取組み

- 県内で正社員として働きたい求職者を対象に、県内企業とのマッチングを促進する「おためし企業体験 in HYOGO」を実施（R5.2時点243人参加）
- ひょうご仕事と生活センターに「ひょうごテレワークサポートセンター」を設置(R4.4)し、テレワークの導入から定着までを総合的にサポート（R5.2末時点 ICT相談77件、ICT専門家派遣149件、テレワーク導入支援助成金81件）
- 女性の活躍を積極的に進める企業を「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ企業）」として認定し、広く情報を発信（R5.3時点認定企業70社）
- 女子学生がライフプランを考慮したキャリアプランニングに取り組む「わたしのキャリア研究会」を開催（R4:18大学85名参加）
- ワーク・ライフ・バランスの先進的な取組を実施している企業を「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」として認定し、特に優れた取組を行う企業を表彰（R5.2末時点認定企業398社、表彰企業152社）

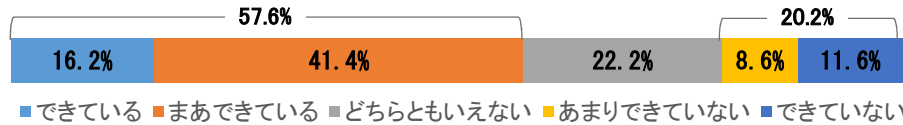


わたしのキャリア研究会
キックオフミーティング



ワーク・ライフ・バランスフェスタ
表彰式

問7 あなたは、しごとと自分の生活の両立ができていますか



【年代別平均値】

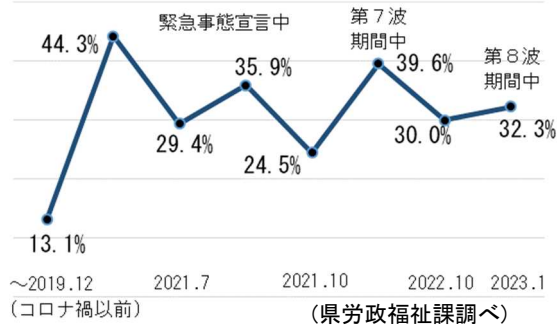
18～29 歳	7.05
30 代	6.96
40 代	7.11
50 代	7.17
60 代	7.09
70 代	6.59
80 歳以上	5.85

「できている」「まあできている」と回答した人の割合は全体の 57.6%と半数を超えており、「できていない」「あまりできていない」の 20.2%を大きく上回っています。年代別では、60 代以下の年代の平均は 7.08 と、現役世代の評価は比較的高く、働き方改革の流れのなかで、ワーク・ライフ・バランスに向けた社会や企業の取組が進んできていることがうかがえます。

◆新しい働き方の広がり

新型コロナウイルスの影響で、社会全体で働き方改革が加速しました。特にテレワークの推進にとまない、場所や時間にとられない働き方が普及するとともに、ワーケーションやマルチワーク（副業・兼業）など新しい働き方も広がりつつあります。

第8波期間中の2023年1月時点において、県内企業の32.3%がテレワークを実施



【企業を選ぶときに特に注目するポイント】

	順位	5年前順位
自分が成長できる環境がある	1	3
社員の人間関係がよい	2	1
福利厚生制度が充実している	3	5
希望する勤務地で働ける	4	7
社会貢献度が高い	5	8

(株)マイナビ「マイナビ 2023 年卒学生就職モニター調査 3 月の活動状況」「2018 年卒マイナビ学生就職モニター調査 3 月の活動状況」

◆ワーク・ライフ・バランスへの関心の高まり

仕事や暮らしに対する価値観が大きく変化する中、今まで以上にワーク・ライフ・バランスが重視されるようになっていきます。学生が就職先を選択する際にも、「福利厚生制度が充実している」「希望する勤務地で働ける」など、ワーク・ライフ・バランスを重視する傾向が高まっています。

働き方改革の推進

○ ひょうご仕事と生活の調和推進企業「宣言-認定-表彰」制度

ワーク・ライフ・バランス（WLB）に取り組む企業を、取組の段階に応じて支援することにより、WLBの広がり取組の高度化を推進

- ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言
WLBに関する普及啓発・情報発信を行い、WLBに取り組む宣言企業を募集・登録（3,375社）
 - ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定
宣言企業のうち、一定の取組を行う企業をWLB推進企業として認定（398社）
 - ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰
認定企業のうち、先進的な取組を行っている企業等を表彰（152社）
- ※（ ）内は令和5年2月末時点

【WLB推進企業への主な支援】

- ・WLB推進のためのワンストップ相談、専門家派遣等
- ・広報やロゴ（認定企業・表彰企業）の使用によるイメージアップ
- ・金融機関等と連携した優遇融資や損害保険料の割引
(宣言企業向け制度・認定企業向け制度あり)
- ・助成制度による支援（宣言企業以上）
中小企業育児・介護代替要員確保支援助成金
テレワーク導入支援助成金
仕事と生活の調和推進環境整備支援助成金
- ・人材確保支援
WLB認定企業への大学生企業見学や成果発表会の実施
WLB表彰企業限定のWEB合同企業説明会の開催
学生向けWLB表彰企業「WLBな会社ガイド」の発行・配布





自分らしく生きられる社会

居場所のある社会

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「職場や学校、家庭以外に、安心感や充実感を得られる場があるか」については、平均が5点台とやや低めの評価であり、10代・20代が特に低い。
- 「地域で多世代のつきあいがあるか」については、平均は5.89だが、地域別では、西播磨、但馬、丹波、淡路で6点台後半、神戸で5.39と、都市部と比較して地方部が高い傾向にある。
- 「頼りになる人が近所にいるか」についても神戸がもっとも低くなっているが、全体的に7.15と高い水準にある。

設問 8

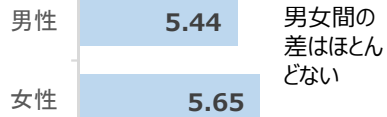
あなたには、職場や学校、家庭以外に、安心感や充実感を得られる場がありますか

全体平均

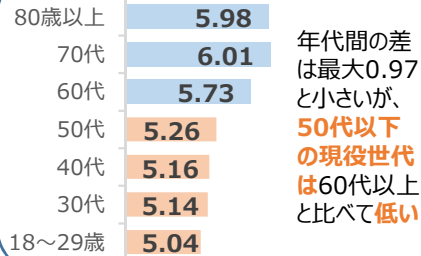
5.55



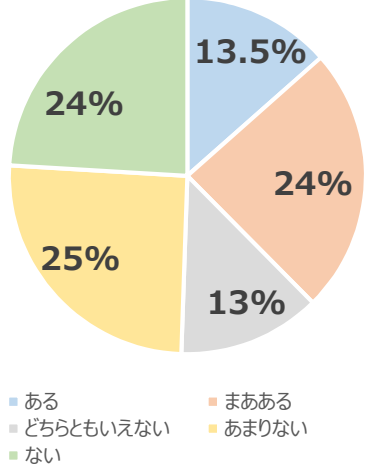
性別



年齢別

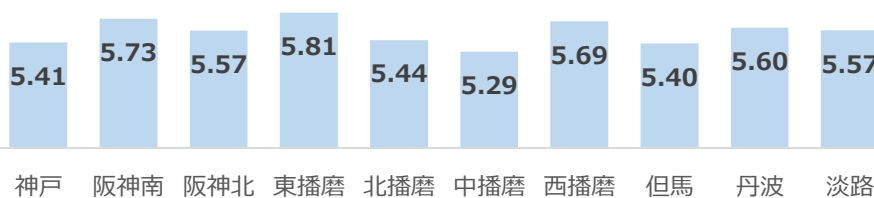


回答割合



地域別

地域による差は最大0.52と小さく、都市部と地方部といった違いは見られない



設問 9

あなたは、住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがありますか

全体平均

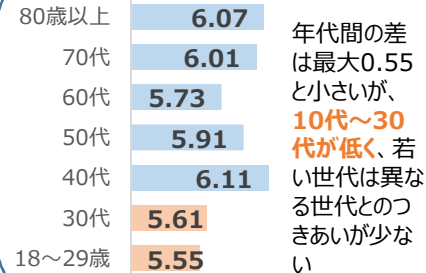
5.89



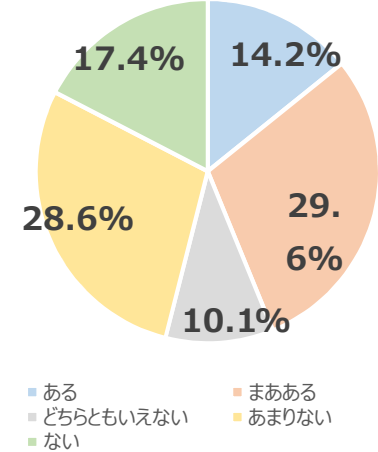
性別



年齢別

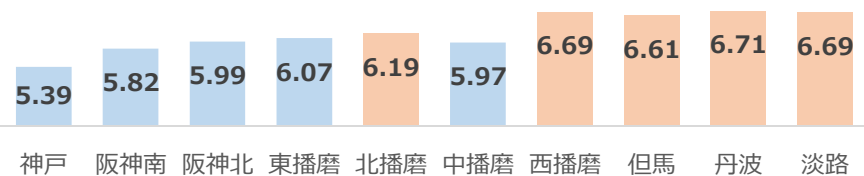


回答割合



地域別

地域による差は最大1.32とやや大きい。都市部と比較して**地方部が高い**





居場所のある社会

■兵庫のゆたかさ指標

設問10

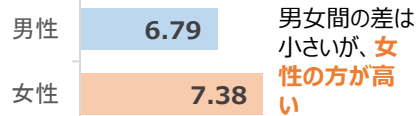
あなたには、知人や親戚など
頼りになる人が近所にいま
すか

全体平均

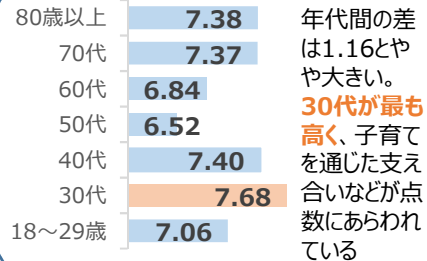


7.15

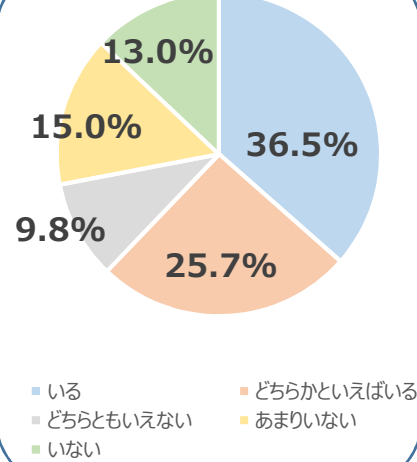
性別



年齢別

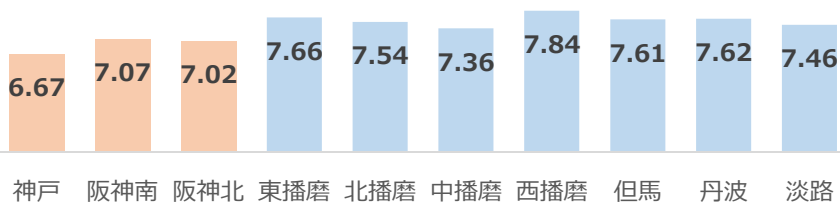


回答割合



地域別

地域による差は最大0.78と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては**都市部が低い**



■主な県の取組み

- 外出等が困難なひきこもり当事者の社会参加を支援するため、匿名で参加できるオンラインコミュニティをWEB上に開設（R4.5）
- 「商店街地域コミュニティの拠点づくり」事業を創設し、商店街の空き店舗を活用したコミュニティカフェ、コワーキングスペース、子ども食堂等の地域コミュニティ拠点の開設を支援（R4:1件採択）
- 子どもたちにあたやかな食事や居場所を提供する「子ども食堂」の開設の支援や、長期化する物価高騰により増加が見込まれる食材費等を支援（R5.3月時点開設支援延べ111カ所、R4年度食材費等支援69カ所）
- 地域の大人が見守るなか、子どもたちが仲間と交流し、自由に遊ぶ「子どもの冒険ひろば」の開設を支援（R4:48カ所）
- 子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育てに関する相談や情報交換等を行う「まちの子育てひろば」の開設を支援（R5.2時点1,932カ所）



子ども食堂



子どもの冒険広場



自分らしく生きられる社会

世界へ広がる交流

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「自慢したい地域の宝があるか」については、平均は6.20とやや高めではあるが、どの地域も7点台に届かず、地域資源を活かしながら新たな魅力を創出していく一層の取組が望まれる。
- 「外国人にも暮らしやすい環境か」については、平均5.61とやや低く、在留外国人数の多い都市部（神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨）でも5～6点台であり、外国人県民の生活環境の充実をさらに進めていく必要がある。

設問11

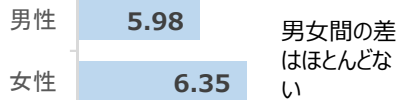
お住まいの地域には、自慢したい地域の宝(風景や産物、文化など)がありますか

全体平均

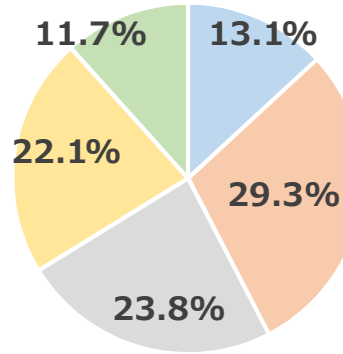
6.20



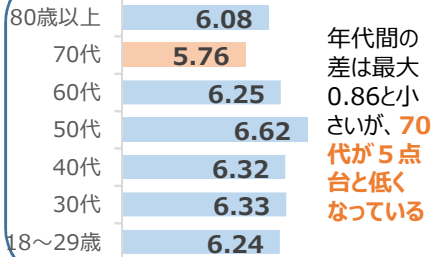
性別



回答割合

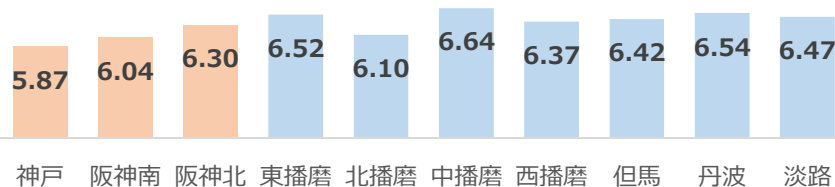


年齢別



地域別

地域による差は最大0.87と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が低い



設問12

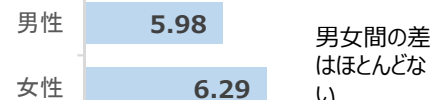
あなたは、外国の文化や人々と接してみたいと思いますか

全体平均

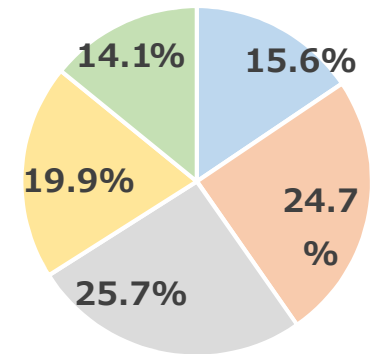
6.15



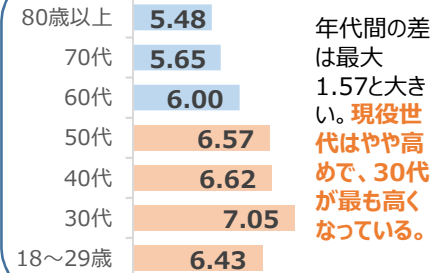
性別



回答割合

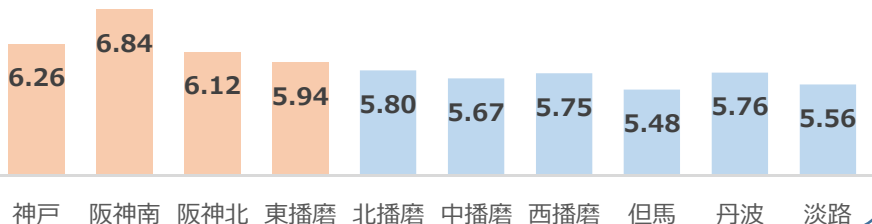


年齢別



地域別

地域による差は最大1.36とやや大きい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い





自分らしく生きられる社会

世界へ広がる交流

■兵庫のゆたかさ指標

設問13

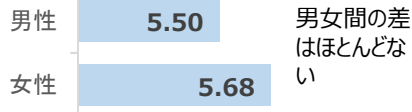
お住まいの地域は、外国人にも暮らしやすい環境が整っていると思いますか

全体平均

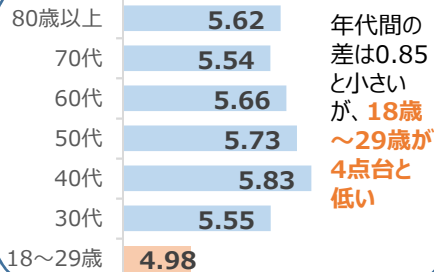


5.61

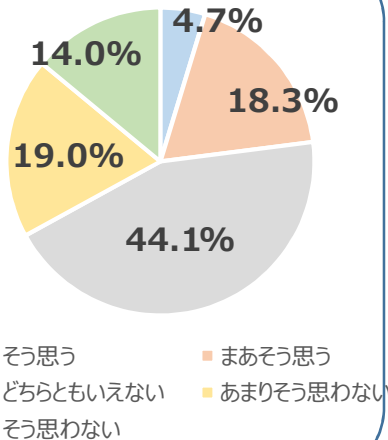
性別



年齢別

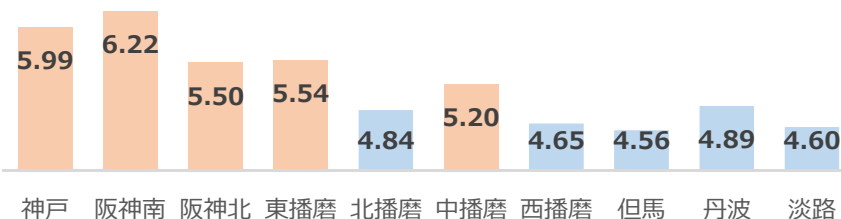


回答割合



地域別

地域による差は最大1.66と大きい。傾向としては都市部が高い



■主な県の取組み

- 「兵庫テロワール旅」をテーマに、地域に根差した食や文化、歴史的背景等を体験する「兵庫デスティネーションキャンペーン」のプレキャンペーンを開催（R4.7~R4.9）
- SDGsを体現する地域の取組を世界に発信する「ひょうごフィールドパビリオン」の全県での展開に向け、県内各地から「SDGs体験型地域プログラム」の募集を開始（強化募集期間R4.6~R4.12）
- 「兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会」を設置(R4.5)し、圏域経済の活性化や交流人口の拡大等を描く新たな将来ビジョンを示した基本方針を策定(R5.3予定)
- ふるさとひょうご寄附金でのウクライナ避難民支援の呼びかけに寄せられた7,600万円を超える寄附金を活用し、生活支援金の給付、公民連携プラットフォーム「ひょうごウクライナ避難民支援サイト」の開設など、避難生活を総合的に支援する「ひょうごウクライナ支援プロジェクト」を展開
- 海外留学への気運を高めるため、「兵庫県高校生留学フェア」を開催（R4.7開催134人参加）するとともに、海外留学する高校生への費用を支援



兵庫テロワール旅「WEST EXPRESS銀河」出発式



第1回大阪湾ベイエリア活性化推進協議会

トピックス ひょうごフィールドパビリオンの展開

問11 お住まいの地域には、自慢したい地域の宝(風景や産物、文化など)がありますか

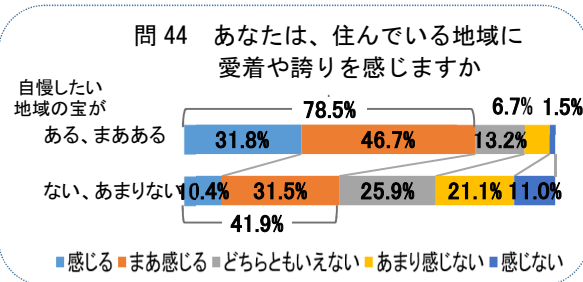


「ある」「まあある」と回答した人の割合は42.4%で、「ない」「あまりない」の33.8%を上回っていますが、平均値は6.20 とほぼ中間点にとどまっています。

◆地域への愛着や誇りーシビックプライド

自慢したい地域の宝が「ある」「まあある」と回答した人の78.5%が、住んでいる地域に愛着や誇りを「感じる」「まあ感じる」と回答しています。

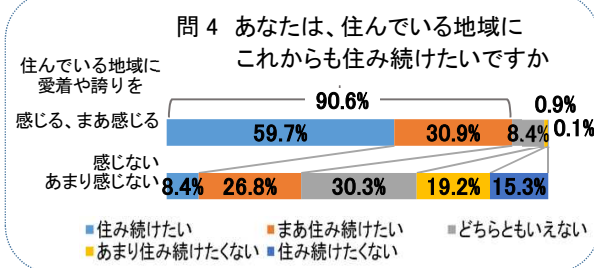
※「ない」「あまりない」と回答した人については41.9%



地域への愛着や誇りーシビックプライドは、地域の一員として、地域を良くしていきたい、地域に住み続けたい気持ちへとつながっています。

◆地域に住み続けたい

住んでいる地域に愛着や誇りを「感じる」「まあ感じる」と回答した人の90.6%が、住んでいる地域にこれからも「住み続けたい」「まあ住み続けたい」と回答しています。



◆地域の魅力の発信

地域の魅力を磨き上げ、発信することで、シビックプライドが高まるとともに、観光などで訪れる交流人口が増加し、人々の交流や関わりにより地域の魅力や活力が一層高まっていく。このような好循環を構築していくことが、持続可能な地域づくりにつながっていきます。

シビックプライドの醸成

○ フィールドパビリオンの展開

2025年大阪・関西万博の開催を機に、地域の取組の現場(フィールド)を地域の人々が主体となって発信し、多くの人に訪れてもらい、見て、学び、体験してもらう「ひょうごフィールドパビリオン」を展開

【世界に発信する取組】
世界が持続可能な発展を遂げるヒント
人類共通の課題を解決するモデル

Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs

- 震災からの創造的復興
- 人と環境にやさしい循環型農業
- 豊饒な大地や海に育まれた食料
- 挑戦を繰り返してきた地場産業
- 郷土の自然と暮らしの中で受け継がれてきた芸術文化

[趣旨]

- ▷ 兵庫各地域に住まう人々が、自らの取組を再評価し、次代を担う人材を育み、兵庫で暮らすこと、生きることの誇りへとつなげ、「躍動する兵庫」を切り拓いていく
- ▷ 世界から兵庫各地域へ人の流れを生み、万博後も継続できる仕組みを確立し、人々の兵庫への関わりを増やしていく

<R4 事業> SDGs 体験型地域プログラムの募集・認定

・113プログラムを認定(第一次認定)

【地域別件数】

摂津	28
播磨	49
但馬	13
丹波	15
淡路	8

【分野別件数】

震災復興	4
自然・環境	30
農林水産	13
食	12
経済・地場産業	30
文化・芸術	24

- ・自然エネルギーを活用した「湯がき体験」(新温泉町)
- ・「日本六古窯」丹波焼の里を訪ねる(丹波篠山市)
- ・防災ツーリズム推進事業(神戸市、三木市ほか)など

<R5 事業> プログラムの磨き上げ

- ・人材発掘・人材育成・商品化支援など、伴走型の支援を実施
- ・国内外からの誘客が可能な魅力的なプログラムへの磨き上げ

5つのめざす社会



新しいことに挑戦できる社会

めざす姿④

みんなが学び続ける社会 子どもの個性を伸ばす教育が行われ 大人になってからも学び続けられる社会

めざす姿⑤

わきあがる挑戦 アイデアを形にする実践が無数に行われ 新しいチャレンジが次々と生まれる社会

めざす姿⑥

わきたつ文化 文化が暮らしの中心にあり 伝統と革新が織りなす多彩な表現活動が展開される社会



新しいことに挑戦できる社会

みんなが学び続ける社会

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われていると思うか」については、10代・20代が5.63と、子どもの年代に近いほど実感がなく、評価が低い。
- 「目的を持って学んでいるものがあるか」については、10代・20代は7.49だが、その他の年代の平均が5.57とやや低い。「学びたいときに学び直すことのできる社会か」については、いずれの年代も4～5点台と低い傾向にある。

設問14

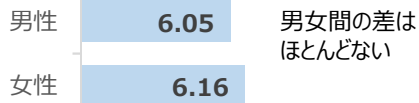
お住まいの地域では、子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われていると思いますか

全体平均

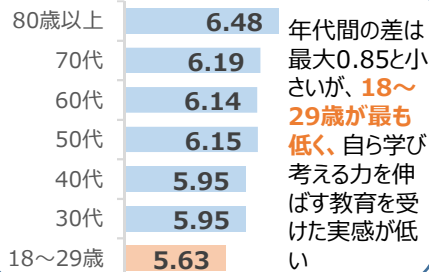


6.12

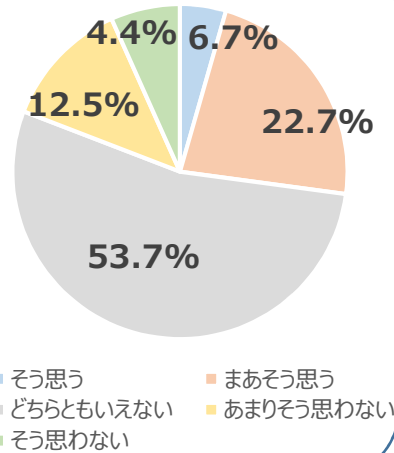
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大0.62と小さい。都市部や地方部といった違いは見られない



設問15

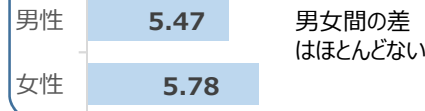
あなたには、目的を持って学んでいるものがありますか

全体平均

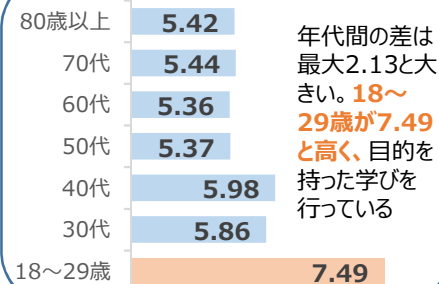


5.64

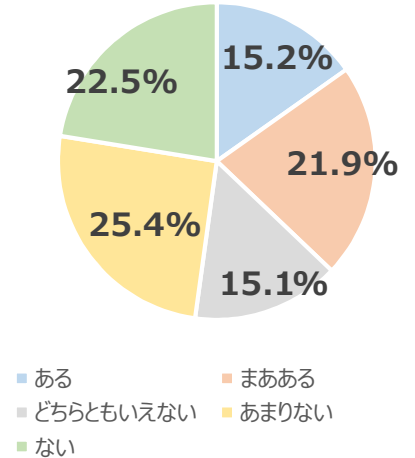
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大0.78と小さい。傾向としては**都市部が高い**





新しいことに挑戦できる社会

みんなが学び続ける社会

■兵庫のゆたかさ指標

設問16

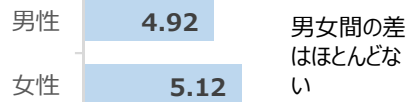
新たな知識や技能を身につけたり、専門性をみがぐために、だれもが学びたいときに学び直すことのできる社会になっていると思いますか

全体平均

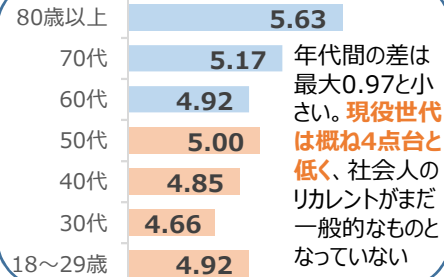


5.04

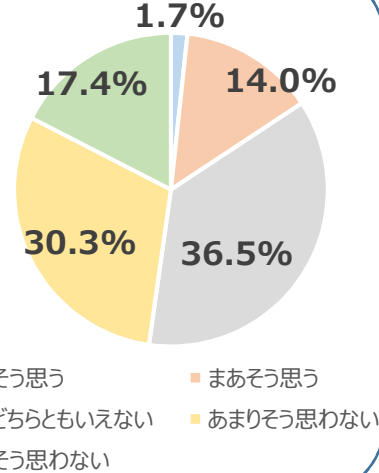
性別



年齢別

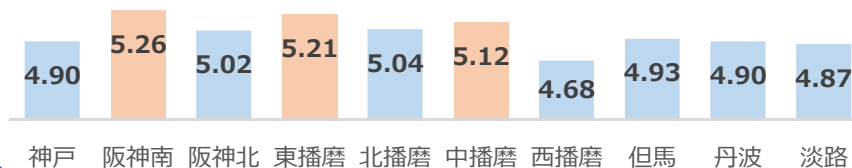


回答割合



地域別

地域による差は最大0.58と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い



■主な県の取組み

- 国内外で活躍する「未来を創造する力を備えた人材」を育成するため、文理を横断した複眼的視野により創造力や課題解決能力を高める「STEAM教育」を指定校3校で実施（兵庫高校、加古川東高校、豊岡高校）
- 県内大学が開発した完全オンデマンド型の教育プログラムを活用し、県内企業のDX人材の育成を支援する「中小企業DX人材育成リカレント教育事業」を展開（R4受講者合計269人）
- 「ひょうごSDGsスクールアワード」を創設し、子ども主体でSDGsの推進に取り組む学校園を募集（R5.1 16校園を表彰）
- 中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を行う「トライやる・ウィーク」を全県下で実施(R4:353校42,716人参加)
- 高齢者の生涯学習の場として、また地域貢献活動へ参画するきっかけとして、高齢者大学を運営（R4受講者数2,292名）



STEAM特別講座（電子工作）
（加古川東高校）



高齢者大学



新しいことに挑戦できる社会

わきあがる挑戦

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「若者が希望を持てる社会か」については、「将来の生活に不安を感じるか」と同様、先行きの不透明感の影響もあり4.76と低い。また、30代以下の若者世代の評価がもっとも低くなっている。
- 「商売、事業を新たに始めやすい社会か」については平均4.86と低く、起業・創業に対する壁を感じていることがうかがえる。また、差は大きくないものの、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨の平均が4.96で、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の平均が4.45と、地方部が低くなっている。

設問17

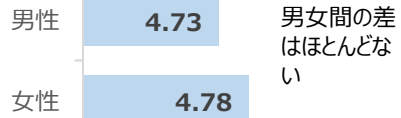
若者が希望を持てる社会だと思いますか

全体平均

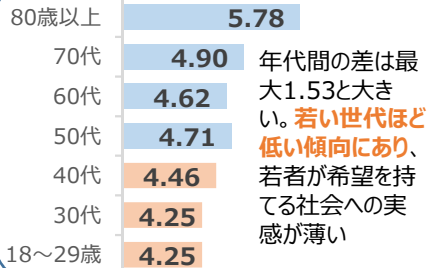
4.76



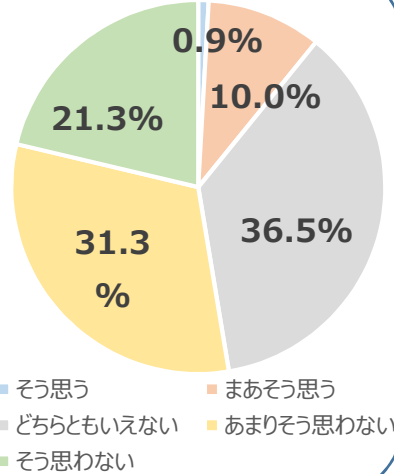
性別



年齢別

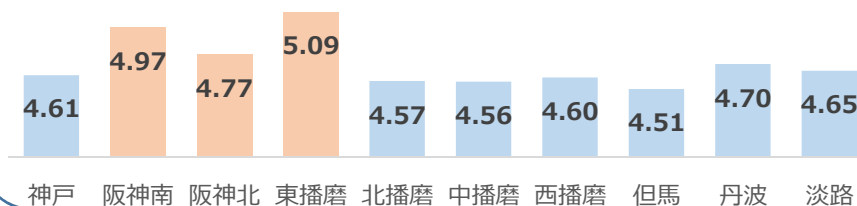


回答割合



地域別

地域による差は最大0.58と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い

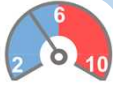


設問18

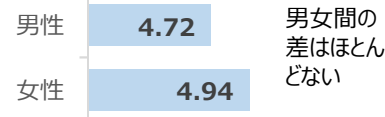
商売、事業を新たに始めやすい社会だと思いますか

全体平均

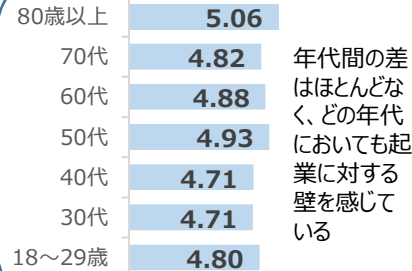
4.86



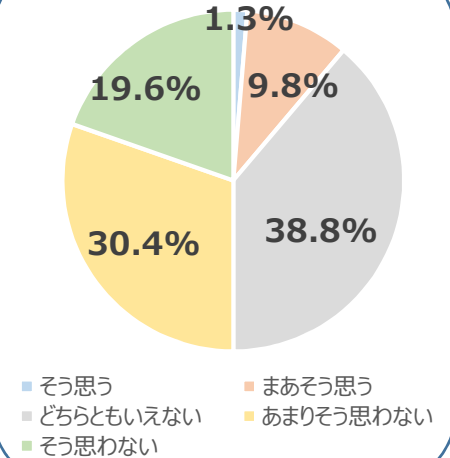
性別



年齢別

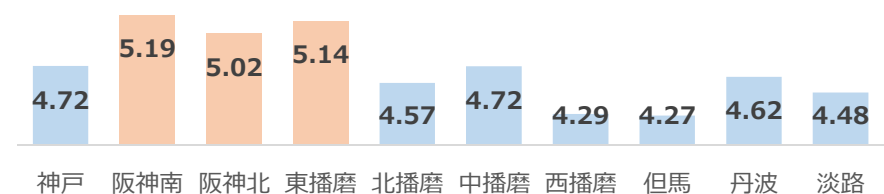


回答割合



地域別

地域による差は最大0.92と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い





新しいことに挑戦できる社会

わきあがる挑戦

■兵庫のゆたかさ指標

設問19

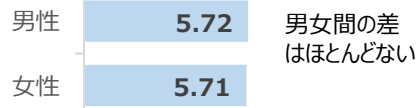
あなたは、ボランティアなどで社会のために活動していますか、またはしてみたいですか

全体平均

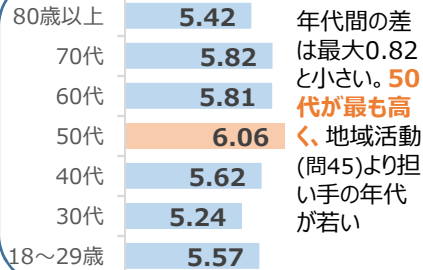


5.70

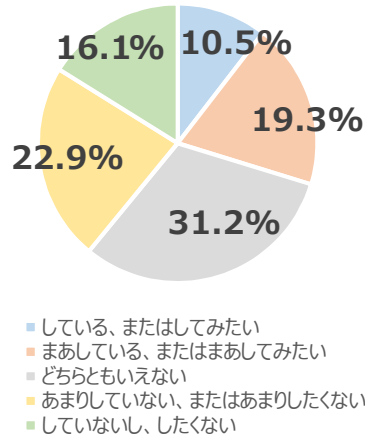
性別



年齢別

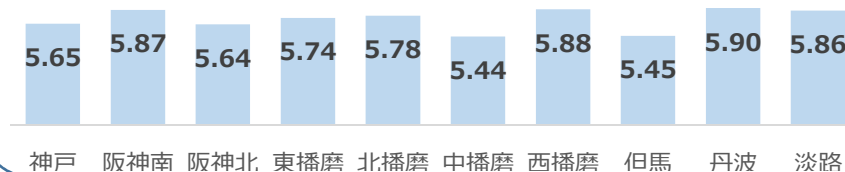


回答割合



地域別

地域による差はほとんどなく、都市部と地方部といった違いは見られない



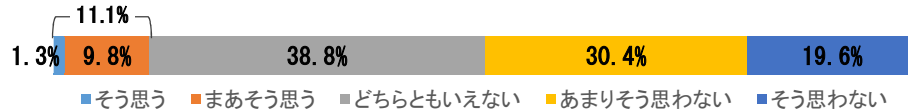
■主な県の取組み

- 県内各地の中高生を対象に、自ら課題を発見し、解決策を考える実践型起業教育プログラム「ひょうごスタートアップアカデミー」を実施（R4:中高6校にモデル導入）
- 起業に再挑戦できる機運を醸成するため、再チャレンジ起業家を支援するアクセラレーションプログラムを創設（R4:採択者数10者）
- 県内コワーキングスペースのネットワーク化を推進。起業家・支援者によるコミュニティを構築し、関係者の交流促進による協業・成長機会を創出（コワーキングスペース運営者会議をR4.12実施）
- 商店街の空き店舗への若者や女性の新規出店を支援する「商店街若者・女性新規出店チャレンジ応援事業」を創設（R4.10時点2件採択済）

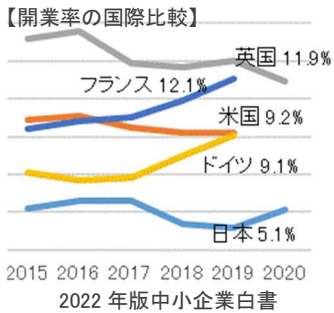


ひょうごスタートアップアカデミー
公開授業の知事視察
(啓明学院中学校)

問 18 商売、事業を新たに始めやすい社会だと思いますか



商売、事業を新たに始めやすい社会だと思う、まあそう思うと回答した人は全体の11.1%にとどまっています。



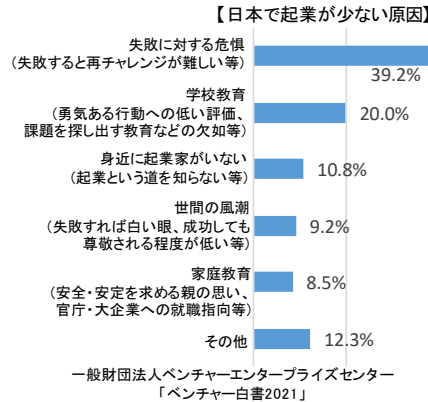
◆起業の状況

起業は、経済の新陳代謝を活発化し、多様なビジネスを生み出す原動力です。社会や地域の課題に新しい発想で取り組み、ビジネス的手法でその解決にあたる起業家にも注目が集まっています。こうした中、日本の開業率は、欧米諸国に比べて一貫して低い水準で推移しています。

◆起業の少ない原因

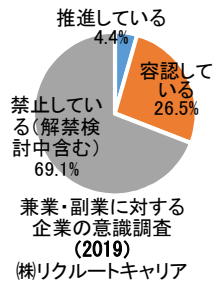
日本で起業が少ない原因として「失敗に対する危機」が最も高くなっています。

「学校教育」「身近に起業家がない」等の回答のほか、「失敗すれば白い目で見られる」、「安全・安定を求める親の思い」など、失敗に対するリスクへの意識がうかがえる回答も見られます。



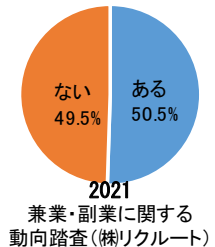
2019年9月調査

就業規則で社員への兼業・副業を認めているか



2022年1月調査

従業員の兼業・副業を認める人事制度の有無



◆副業・兼業

近年、収入源の多様化、新たなスキルの獲得、スキルのアップデート等を動機に、副業・兼業を希望する人が増えています。コロナ禍でのテレワークの普及で副業・兼業をしやすい環境が整ったことで、従業員の兼業・副業を認める企業も増えてきています。

課題に挑戦する若者の育成

○ ひょうごスタートアップアカデミー

- ・中高生からのアントレプレナーシップ教育
 - 中学校・高校に実践型教育プログラム BizWorld をモデル的に導入、また実施校以外の生徒も参加できる高校生向け 1Day プログラムを各地で実施

BizWorld : シリコンバレーで生まれた、課題解決型のアントレプレナーシップ教育プログラム。小中高生が起業家精神、ビジネス及び金融の基本を実践を通じて学ぶことができる。

- ・県内大学と連携した起業人材育成講座の実施

○ スタートアップチャレンジ甲子園

- 起業を志す学生等がビジネスプランを競い合う「スタートアップチャレンジ甲子園」を大阪府と共同で開催



スタートアップの支援

○ SDGs チャレンジ・脱炭素イノベーション創出支援事業

- グローバルな視野で SDGs 課題解決に資する技術・サービスやプロダクトにより、海外展開を志向するスタートアップ等に対し、神戸市と連携し、事業開発・海外進出を支援 (R5 年度は「脱炭素」を重点テーマに設定)

【アクセラレーター等の事業開発支援】

- ・ Founders Meeting (参加企業トップの相互交流・支援・学習)
- ・メンタリング、ビジネスマッチング及びワークショップ
- ・中間デモデイ及び市民公開型デモデイ
- ・海外展開・グローバルビジネス開発支援

【採択企業の海外進出における下記の実証・調査事業の経費支援】

- ・海外での顧客・市場調査、展開パートナー候補の調査、実証事業 (試作品開発等)
- ・海外展示会等への出展
- ・海外渡航・海外スタートアップ・コミュニティや起業家・イノベーター等との現地交流



新しいことに挑戦できる社会

わきたつ文化

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「暮らしの中でスポーツ・スポーツ観戦を楽しむ」については、阪神南が6.69と最も高く、隣接する阪神北、神戸がそれに続き、「暮らしのなかで芸術文化を楽しむ」についても、最も高い阪神南が5.98、それに続く神戸、阪神北と、スポーツ施設、文化施設等へのアクセスのしやすい地域が高くなっている。年代別ではいずれも、40代・50代の評価が高く、30代が低い。
- 「伝統芸能・文化が受け継がれている地域か」については、神戸、阪神南、阪神北が5点台と、相対的に都市部で低い傾向がうかがえる。年代別には目立った違いは見られない。

設問20

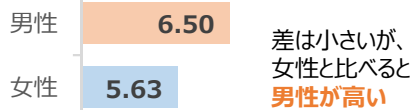
あなたは、暮らしの中でスポーツをしたりスポーツ観戦を楽しんだりしていますか

全体平均

5.96



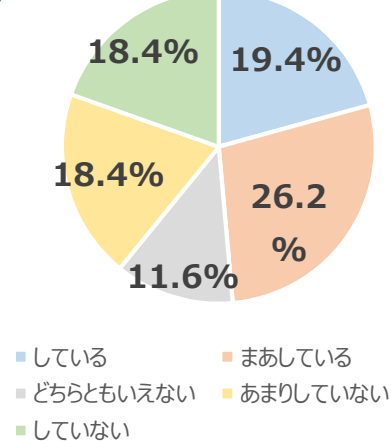
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大1.47とやや大きい。スポーツ施設等へのアクセスのしやすい阪神地域が6点台と高くなっている



設問21

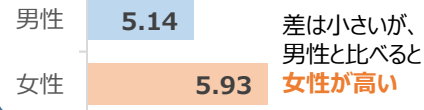
あなたは、暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っていますか

全体平均

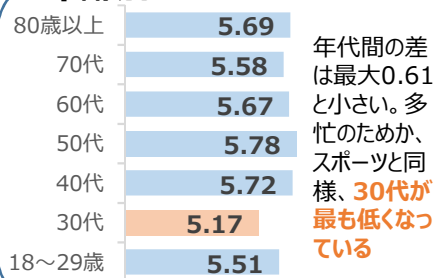
5.61



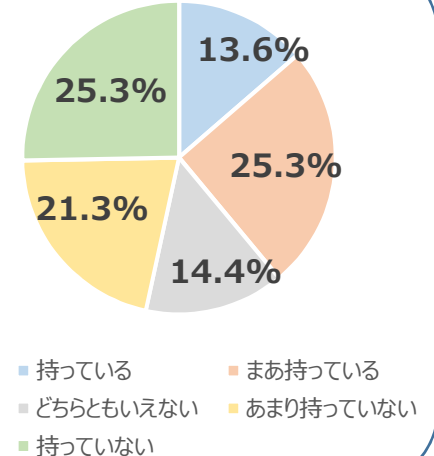
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大1.08とやや大きい。劇場・ホール等へのアクセスのしやすい神戸、阪神地域が最も高くなっている





新しいことに挑戦できる社会

わきたつ文化

■兵庫のゆたかさ指標

設問22

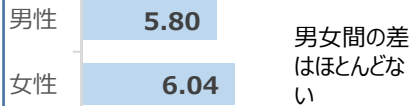
お住まいの地域では、伝統芸能・文化などが受け継がれていると思いますか

全体平均

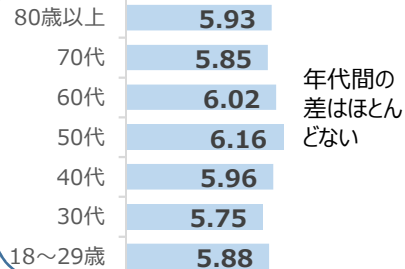


5.96

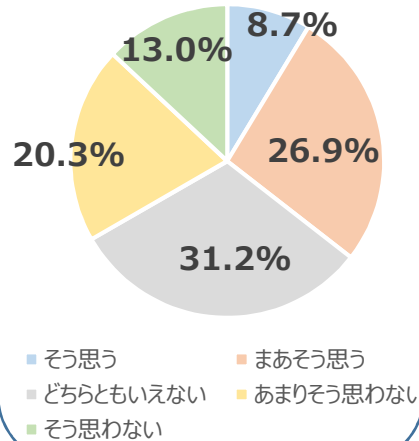
性別



年齢別

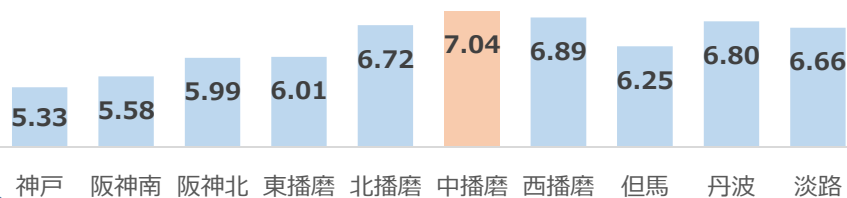


回答割合



地域別

地域による差は最大1.71と大きい。傾向としては地方部が高いが、最も高いのは「灘のけんか祭り」等の伝統のある中播磨地域となっている



■主な県の取組み

- 県立芸術文化施設の無料開放や特別イベントを展開する「ひょうごプレミアム芸術デー」を創設（9県立施設でR4.7開催）
- コロナ禍における舞台芸術鑑賞機会の減少を踏まえ、音楽・演劇等の公演に学生を無料招待する制度を創設し、子どもたちへの芸術鑑賞の機会を確保（R5.2時点33公演において2,076席を無料開放）
- 芸術文化活動団体の舞台公演や展示会の開催を支援し、芸術文化活動の活性化と県民の鑑賞機会を確保（R5.2時点69件支援）
- 障害者の芸術文化活動の振興のため、障害者芸術作品を常設展示する「兵庫県障害者アートギャラリー」を運営（R5.3時点 常設展10回開催:原田の森ギャラリー内）
- パラスポーツの普及拡大のため、学校や企業などへの出前講座（R4:16回開催）や、車いすテニスなどの各種体験会「パラスポーツ王国HYOGO & KOBE“夢プロジェクト2022”」を開催（R4.11）
- 地域をeスポーツで盛り上げる実証実験として、「HYOGO eスポーツフェスタin城崎温泉」を開催(R4.10)



ひょうごプレミアム芸術デー



パラスポーツ
(車いすテニス)

5つのめざす社会



誰も取り残されない社会

めざす姿⑦

みんなが生きやすい地域 年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わりなく 一人ひとりの個性が大切にされる社会

めざす姿⑧

安心して子育てできる社会 地域に見守られながら安心して子育てができ 多様な家族の形を受け入れる社会

めざす姿⑨

安心して長生きできる社会 充実した医療・福祉サービスを受けられ 何歳まで生きても安心な社会



誰も取り残されない社会

みんなが生きやすい地域

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「孤立しがちな人を生まないように気にかける社会か」についてはどの地域も4～5点台と低い。
- 「ハラスメントの予防・解決に向けた取組が社会全体として進んでいるか」については、平均5.30とやや低めである。地域差、年代差もあまり見られず、全体として進んでいる実感があまりない。
- 「年齢・性別・障害の有無などに関わりなく暮らしやすい環境が整っているか」については、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨の平均が6.30、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の平均が5.62と、都市部と比較して、地方部が低くなっている。

設問23

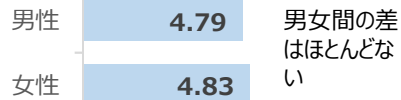
孤立しがちな人を生まないように気にかける社会であると感じますか

全体平均

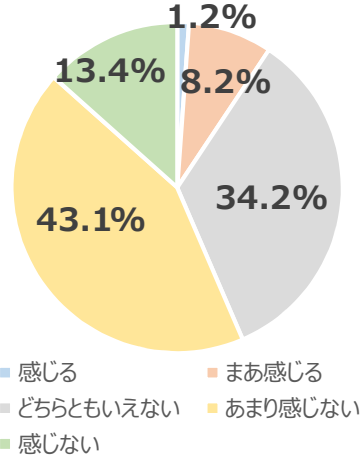
4.81



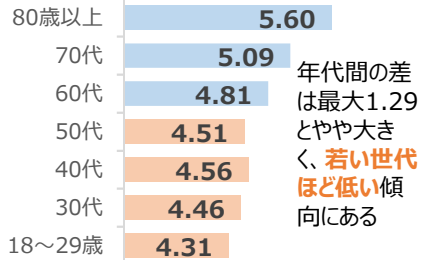
性別



回答割合

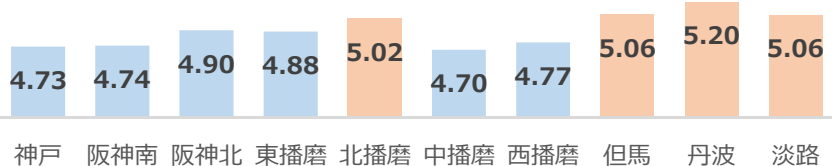


年齢別



地域別

地域による差はほとんどないが、都市部と比較すると地方部が高い



設問24

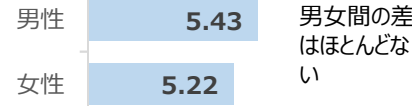
ハラスメントの予防・解決に向けた取組が社会全体として進んでいると思いますか

全体平均

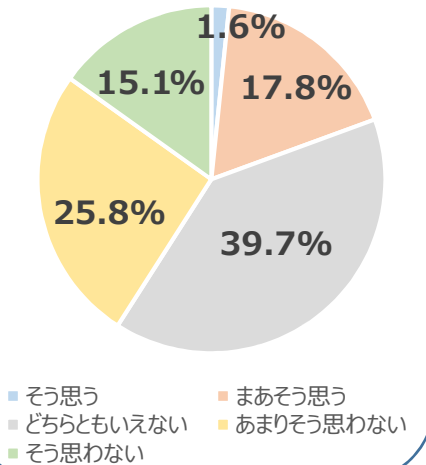
5.30



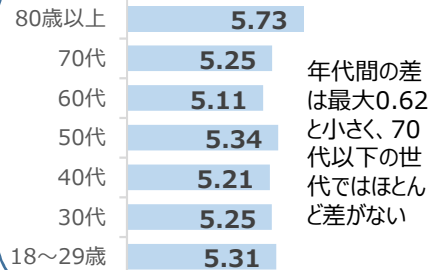
性別



回答割合

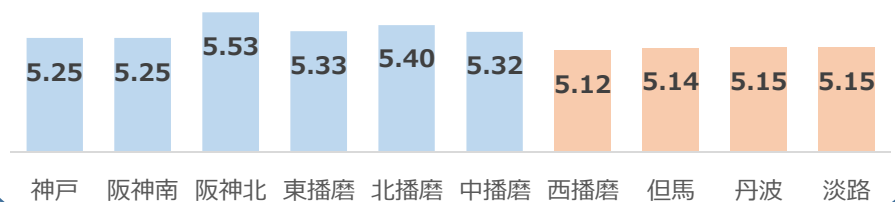


年齢別



地域別

地域による差はほとんどないが、都市部と比較すると地方部が低い





誰も取り残されない社会

みんなが生きやすい地域

■兵庫のゆたかさ指標

設問25

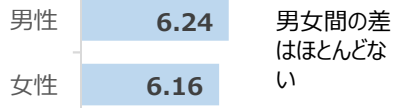
お住まいの地域には、年齢、性別、障害の有無などに関わりなく、暮らしやすい環境が整っていると
思いますか

全体平均

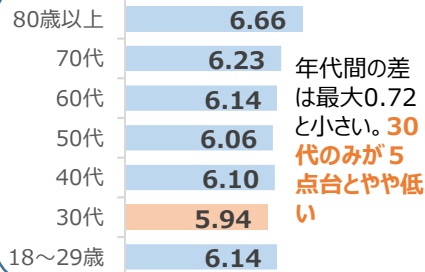


6.19

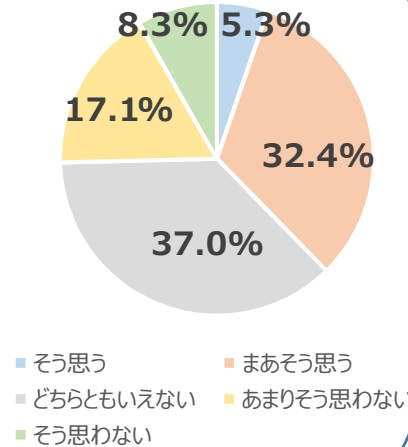
性別



年齢別

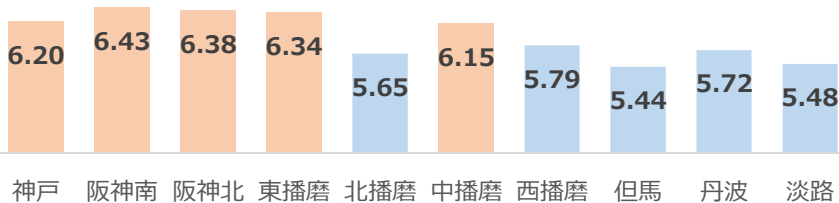


回答割合



地域別

地域による差は最大0.99と小さい。傾向としては都市部が高い



■主な県の取組み

- 「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」の開設(R4.6)など、ヤングケアラーの早期発見・悩み相談・福祉サービスとの連携などの支援体制を整備（R5.2末時点延べ相談件数210件）
- たんの吸引等の医療的ケアが必要な障害児や家族等に対するワンストップ相談や、家族交流会等を行う「医療的ケア児支援センター」を設置(R4.6)
- デジタルデバイド解消のため、障害者からのパソコンやスマホ等の相談に対応する窓口を開設するとともに、各地域でITスキル入門講座を開催（R4:ITスキル入門講座59回実施）
- インターネット上の誹謗中傷等やLGBT等性的少数者に関する人権相談窓口を開設（それぞれR4.4、R4.9開設）
- 障害の有無や年齢等に関わらず、様々な人が気兼ねなく旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムを推進するため、コンシェルジュの育成やおもてなし研修、トップセミナー等を開催し、観光地の受入体制の強化や機運醸成等を展開（R4コンシェルジュ育成プログラム修了者数17名、R4トップセミナー参加者数約80名）



ヤングケアラー相談窓口



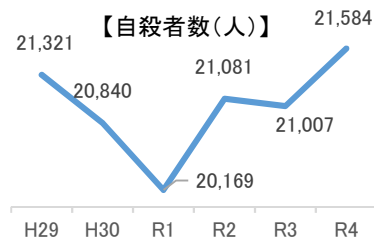
「ひょうごIT相談コンシェルジュ育成プログラム」講座

問23 孤立しがちな人を生まないように気をつけよう社会であると感じますか



年齢	値
18～29歳	4.31
30代	4.46
40代	4.56
50代	4.51
60代	4.81
70代	5.09
80歳以上	5.60

孤立しがちな人を生まないように気をつけよう社会であると感じる「感じる」「まあ感じる」人の割合は9.4%で、「感じない」「あまり感じない」の56.5%を大きく下回っています。年代別平均値を見ると、18歳～29歳で4.31と最も低くなっています。



◆孤独・孤立の深刻化

長引くコロナ禍において、人とのコミュニケーション機会が減少したことなどを背景に、孤独・孤立の問題が深刻化しています。自殺者数の増加についても、孤独・孤立が要因の一つと考えられています。

同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度

頻度	割合
週1回以上	39.3%
2週間に1回程度	8.7%
月1回程度	13.8%
月1回未満	15.2%
全くない	11.2%
無回答	11.8%

人々のつながりに関する基礎調査
(令和3年)
内閣官房孤独・孤立対策担当室

◆社会背景

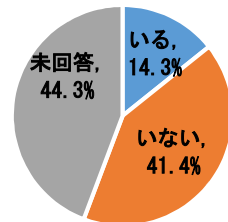
孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(人々のつながりに関する基礎調査)では、非同居家族や友人との直接対話が月1回もないと回答する人の割合が26.4%となりました。未婚率の上昇、高齢化により単身世帯の割合は増加しており、令和2年の国勢調査では、全体の38%に達しています。地域や家庭においても、人々が関わり合い支え合う機会が減少し、生きづらさや孤独・孤立を感じる人が増えています。

◆ヤングケアラーの顕在化

本来大人が担うと想定されている家族の介護や家事などを担う子どもたち「ヤングケアラー」は、学校を休みがちになる、友人関係も構築しにくいなど、学力・就学機会の確保や社会性の獲得などに、大きな問題を抱えてしまうことがあります。

家庭内のデリケートな問題であること、本人に「ヤングケアラー」の認識がないことなどで、支援の必要があっても表面化しにくい構造となっており、大きな社会問題となっています。

ヤングケアラーの認識のないヤングケアラーが全体の4割を超えており、周囲から見えにくい

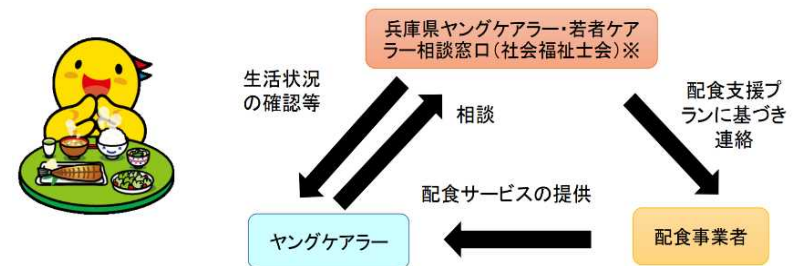


兵庫県ケアラー、ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査

ヤングケアラー等への支援

県では、ケアを担う子ども・若者たちが“取り残されることがない社会の実現”を目指して、早期発見、悩み相談・福祉サービスへのつなぎなどの支援体制を構築しました。

- 兵庫県ケアラー・ヤングケアラー支援推進方策の策定(R4.2)
- ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口の開設
家族のケアを担うヤングケアラー・若者ケアラーの精神的負担軽減、市町や支援機関へつなぐなどの展開を図るため、電話やメール、LINEによる相談を実施
- ヤングケアラーに対する配食支援
心身ともに負担の大きいヤングケアラーとその家族に対し、配食サービスの提供を行い、負担軽減を図るモデル事業を実施



- ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修
ヤングケアラー・若者ケアラーの抱える問題に気づく体制づくりを構築するため、福祉・介護・教育等の関係職員を対象に研修を実施
- 民間団体と連携した活動支援
ヤングケアラー・若者ケアラーが安心して自分の気持ちを話したり、相談できるような「場づくり」を促進するため、ピアサポート等の交流活動に取り組む団体の活動を支援



誰も取り残されない社会

安心して子育てできる社会

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「子育てとの両立がしやすい労働環境が整っているか」については、子育て世代を含めたすべての年代、すべての地域で4～5点台にとどまっており、育児サポート制度の充実、多様な働き方の導入などを一層推進していく必要がある。
- 一方、「地域で子どもを守り育てる環境があるか」「安心して楽しく子育てができる地域か」についてはすべての年代・地域で6点を超過しており、子育て中の親子の居場所づくりや相談支援、登下校の見守りなど、地域で子どもを育てる環境づくりが浸透しつつあることがうかがえる。

設問26

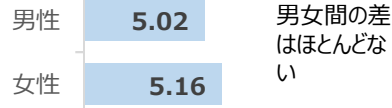
子育てとの両立がしやすい労働環境が整っている社会だと思いますか

全体平均

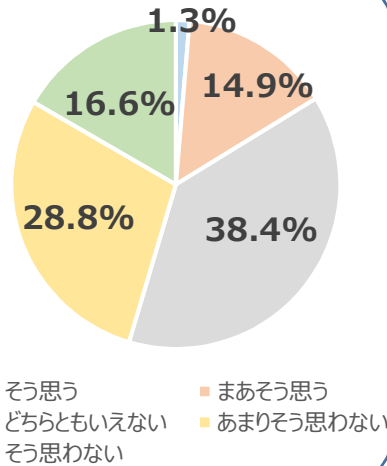


5.11

性別



回答割合

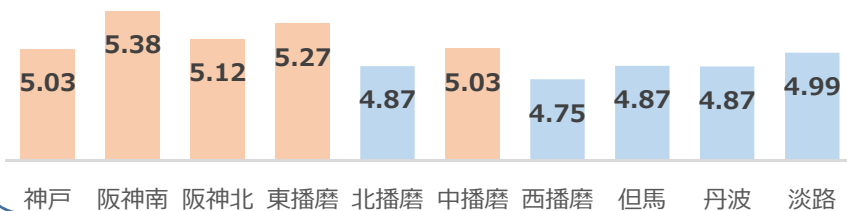


年齢別



地域別

地域による差は最大0.63と小さい。傾向としては都市部が高い



設問27

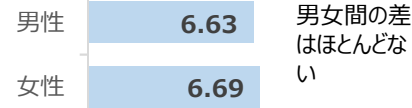
お住まいの地域には、地域で子どもを見守り育てる環境がありますか

全体平均

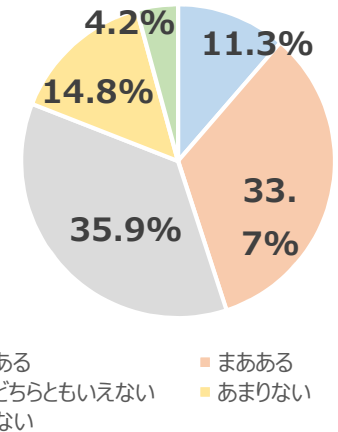


6.66

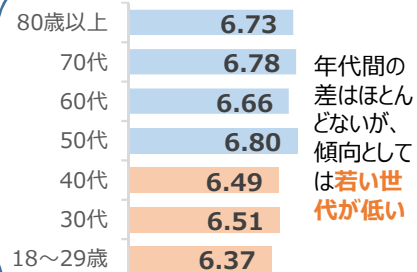
性別



回答割合

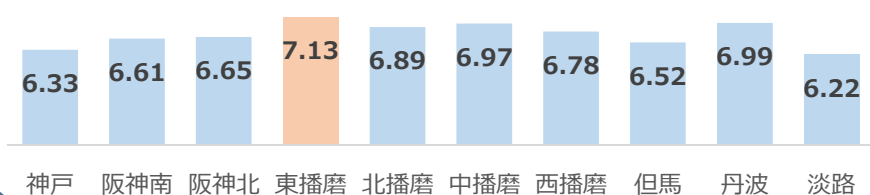


年齢別



地域別

東播磨地域のみ7点台と高いが、地域による差は最大0.91と小さい





誰も取り残されない社会

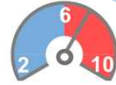
安心して子育てできる社会

■兵庫のゆたかさ指標

設問28

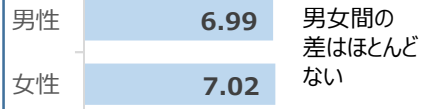
お住まいの地域では、安心して楽しく子育てできると思いますか

全体平均

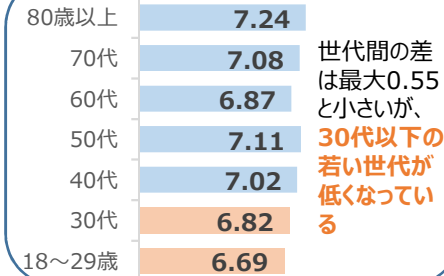


7.00

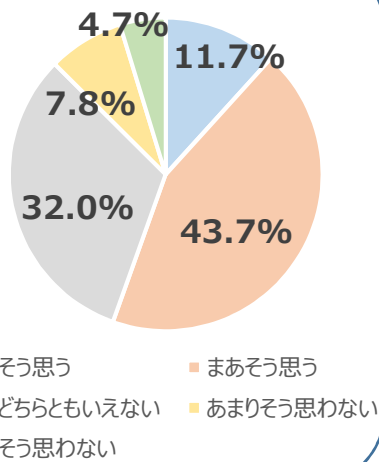
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大0.71と小さく、都市部と地方部といった違いは見られない



■主な県の取組み

- 育児負担の大きい多胎育児家庭の支援のため、自転車やベビーカーなどの購入・レンタル費用の支援を開始（R5.2末時点229件）
- 「課題を抱える妊産婦支援プロジェクト」を創設し、ふるさとひょうご寄附金(R4.9募集開始)等を活用した出産費用や資格取得、頼れる居場所づくり等への支援を展開
- 子育て支援を受ける機会が少ない在宅育児世帯を積極的に支援するため、LINEチャット及び電話による子育て相談、専門家によるWeb相談や訪問相談を実施（R5.2末時点 相談件数419件）
- いじめや不登校など複雑化する学校課題に対し、教育事務所長のリーダーシップのもと、効果的・機動的に市町教育委員会や市町立学校へ支援を行えるよう、学校支援専門員(教員OB・警察OB)、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等で構成する「学校問題サポートチーム」を新設（R4.4）
- 「ひょうご保育料軽減事業」により、保育所・認定こども園等に通う0～2歳児の子ども保育料を支援

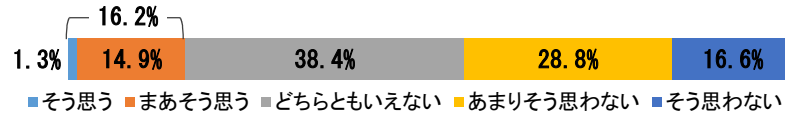


課題を抱える妊産婦支援プロジェクトを実施する「小さないのちのドア」代表と知事の懇談



ひょうご子育て相談

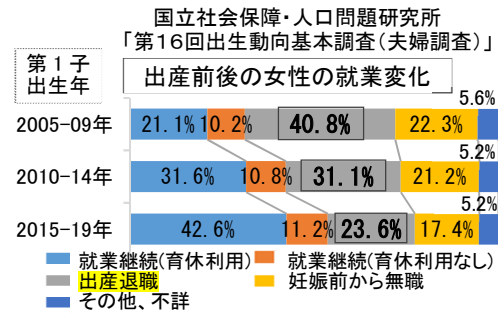
問 26 子育てとの両立がしやすい労働環境が整っている社会だと思いますか



「そう思う」「まあそう思う」人の割合は16.2%にとどまっています。

◆出産・育児による離職

出産・育児による離職を防ぎ、希望に応じて男女ともに仕事と育児を両立できる社会の実現が求められています。しかし、令和3年の出生動向調査（夫婦調査）によれば、出産退職は年々減少してはいるものの、2015-19年に第1子を出産した妻の23.6%が依然として退職となっています。



退職した理由を調べた調査によれば、「仕事を続けたかったが両立が難しかった」が41.5%でもっとも多くなっています。

（「令和2年度仕事と育児等の両立に関する実態把握のための調査研究事業」(株)日本能率協会総合研究所）

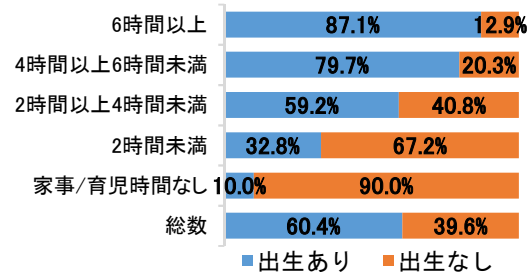
◆男性の育児休業取得

こうした状況を背景に、令和3年には、育児・介護休業法が改正され、男性の育児休業取得促進のための柔軟な育児休業の枠組みなどが創設されました。

夫の家事・育児時間が長いほど妻の継続就業割合や第2子以降の出生割合が高くなっているという調査結果も出ています。

女性が子育てをしながらも、望む働き方を選択し、キャリアプラン・ライフプランを実現できるとともに、男性も育児休業を取得し、主体的に家事育児に関わっていく環境整備を進めていくことが求められています。

夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生割合



仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート 2019

子育てと両立できる労働環境の整備

○ ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)認定制度

県内企業の女性活躍を推進するための制度として、兵庫県と神戸市が共同で創設。だれもが活躍できる職場づくりに向けた気運醸成や、ステップアップを後押しするとともに、SDGsにもリンクし、「選ばれる企業」としてのブランド力向上と人材確保を支援

【4つの柱・20項目】

- 1 企業の取組姿勢（3項目）
トップの方針明示など
- 2 キャリア形成支援（3項目）
管理職の意識改革、男性の家事育児参加促進など
- 3 女性の登用促進（4項目）
女性管理職の割合や、正規雇用における女性採用比率など
- 4 女性の定着促進（10項目）

賃金等の雇用環境の男女格差の是正、希望の職種・勤務地での配置、多様な働き方の実現、子育てや介護等のための休暇・休業制度、全国平均以上の男性の育児休業取得率、保育所や託児スペースの設置、出産、育児に要する経費の援助等

【ミモザ企業】

全項目の7割（14項目）以上達成で認定

【プラチナミモザ企業】

全項目達成+先導的な取組実施

（他社のお手本になる取組、D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の取組を実施)

【認定企業へのインセンティブ】

- ① 認定マークの使用（女性活躍・SDGs推進企業として対外的にアピール）
- ② 県の特設サイトで積極的にPR
- ③ 合同就職フェアへの出展、女性活躍企業フォーラム等で紹介

認定マーク



ひょうご・こうべ
女性活躍推進認定
ミモザ企業



誰も取り残されない社会

安心して長生きできる社会

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

○「心身ともに健康か」「安心できる医療の環境が整っているか」「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域か」については、いずれも神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨の平均が、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の平均を上回っており、医療機関や福祉サービス事業所が数多く立地する都市部の点数が高くなっている。

設問29

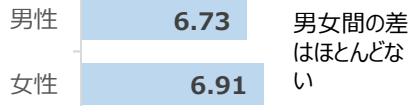
あなたは、心身ともに健康であると感じますか

全体平均

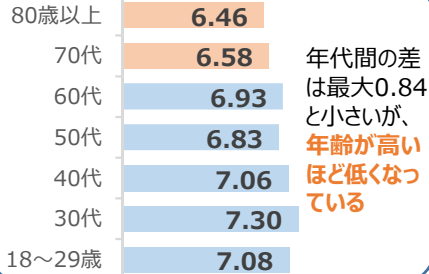
6.83



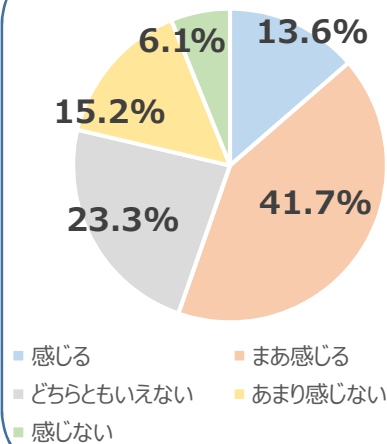
性別



年齢別

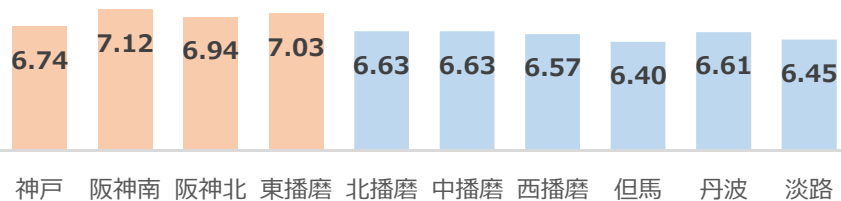


回答割合



地域別

地域による差は最大0.71と小さい。傾向としては都市部が高い

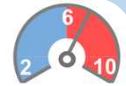


設問30

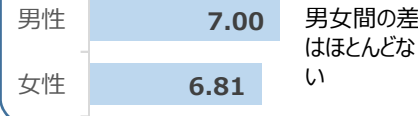
お住まいの地域には、安心してできる医療の環境が整っていると思いますか

全体平均

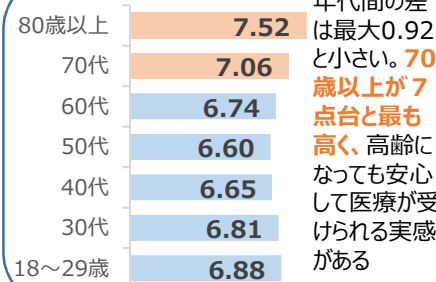
6.90



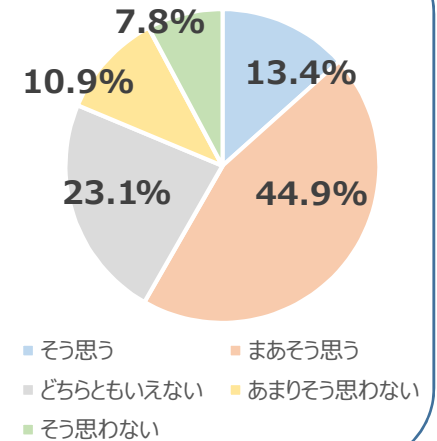
性別



年齢別

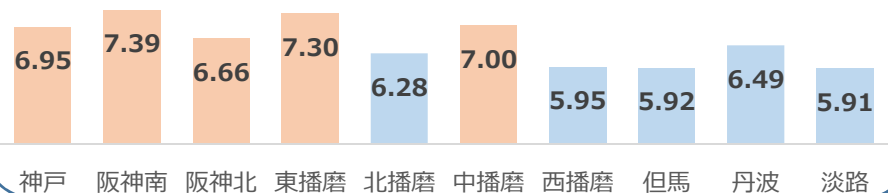


回答割合



地域別

地域による差は最大1.48とやや大きい。傾向としては、より多くの医療機関にアクセスのしやすい都市部が高い





誰も取り残されない社会

安心して長生きできる社会

■兵庫のゆたかさ指標

設問31

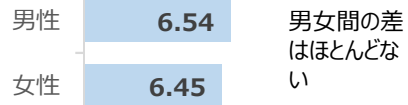
お住まいの地域は、高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だと思いますか

全体平均

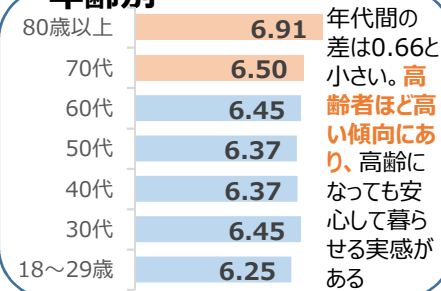


6.50

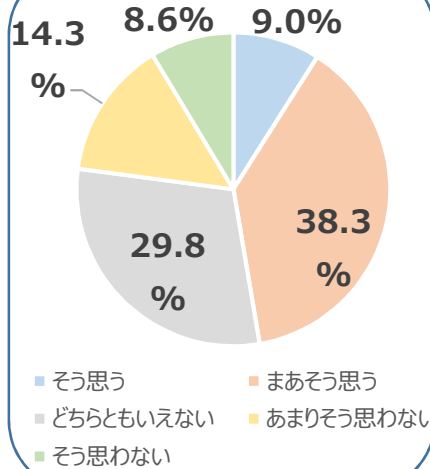
性別



年齢別

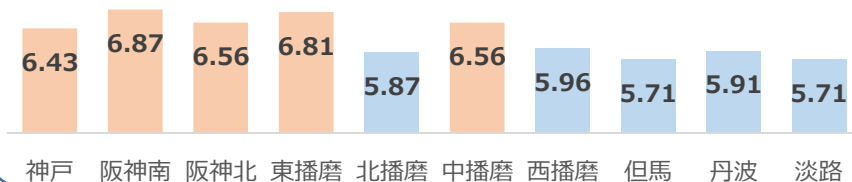


回答割合



地域別

地域による差は最大1.16とやや大きい。傾向としては、公共交通機関等の利便性の高い都市部が高い



■主な県の取組み

- ワクチン接種、検査・医療体制の整備、自宅療養者に対するフォローアップ体制の強化など、県民の生命と健康を守るコロナ対策を総合的に展開
- 播磨姫路圏域において、中核的な総合病院として高度専門・急性期医療を担う「県立はりま姫路総合医療センター」を開院（R4.5）
- 従来からの認知症予防検診に加え、新たに市町における認知症予防教室の開催支援を開始（R4補助活用市町数5市町）
- 全身の健康にもつながる歯及び口腔の健康づくりをより一層推進していくため、「歯及び口腔の健康づくり推進条例」を制定（R4.4施行）
- 要介護者の自宅での生活を支援するため、退院直後の在宅生活への移行や看取り期の支援、医療行為等の多様なサービスを24時間365日提供する看護小規模多機能型居宅介護サービス事業所の整備などを促進（R5.3時点54事業所）



知事のワクチン接種会場視察



はりま姫路総合医療センター
（開院記念式典）

5つのめざす社会



自立した経済が息づく社会

めざす姿⑩

循環する地域経済 地域の課題に応える仕事が次々と生み出され 地域の中で価値が循環する社会

めざす姿⑪

進化する御食国 多様な気候風土を活かして多彩な食を生み出し 地域に豊かな食が行き渡る社会

めざす姿⑫

活動を支える確かな基盤 交流と安全の基盤が整い 自ら危機に備える文化も根付く強靱な社会



自立した経済が息づく社会

循環する地域経済

■兵庫のゆたかさ指標

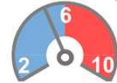
評価の概要

- 「駅前や商店街の活気」については、駅前や商店街自体の少ない地方部の点数は、都市部と比べて低くなっている。
- 「地域の企業の活気」、「優れた製品・技術・ブランド力を持った企業」については、どの地域、どの年代においても6点に届かず、地域の企業に対する県民の認識・評価が低い。

設問32

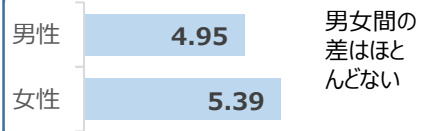
お住まいの地域の駅前や商店街に活気があると思いますか

全体平均

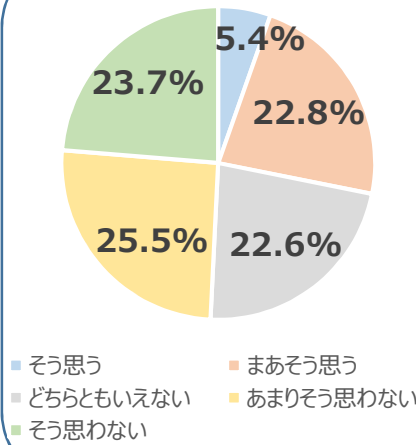


5.21

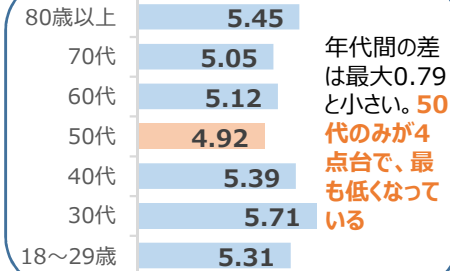
性別



回答割合

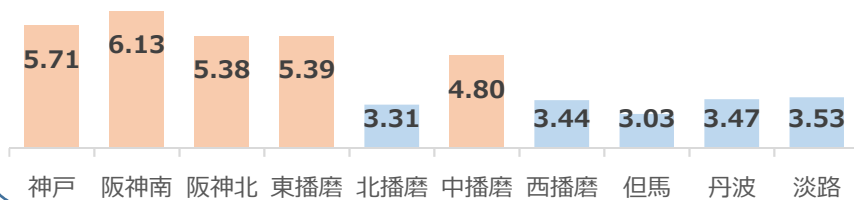


年齢別



地域別

地域による差は最大3.10と大きい。人口が集中し、多数の駅や商店街に人が集まる都市部が高くなっている



設問33

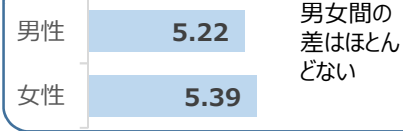
お住まいの地域の企業に活気があると思いますか。

全体平均

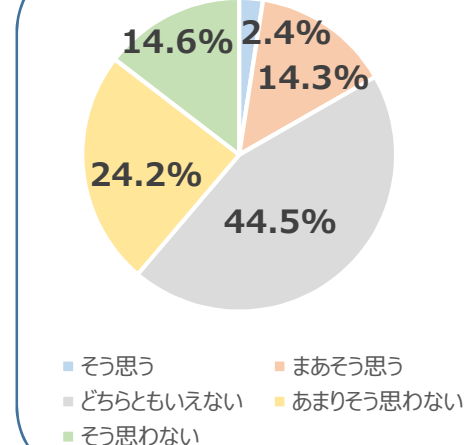


5.32

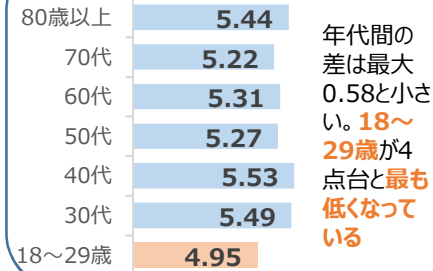
性別



回答割合

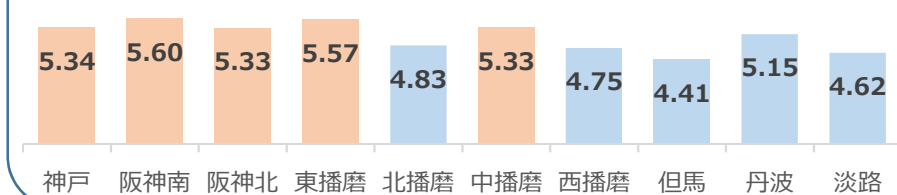


年齢別



地域別

地域による差は最大1.19とやや大きく、都市部が高い傾向にある





自立した経済が息づく社会

循環する地域経済

■兵庫のゆたかさ指標

設問34

お住まいの地域には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っていますか

全体平均

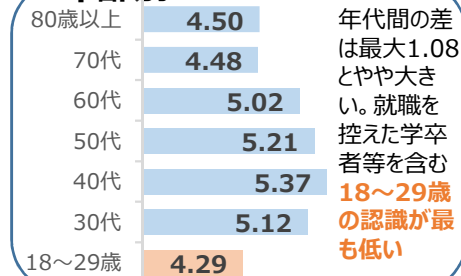


4.88

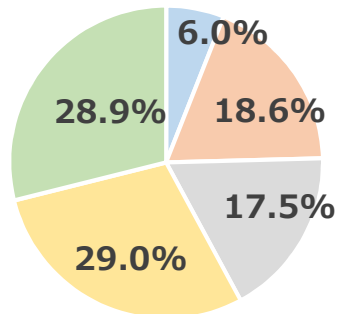
性別



年齢別



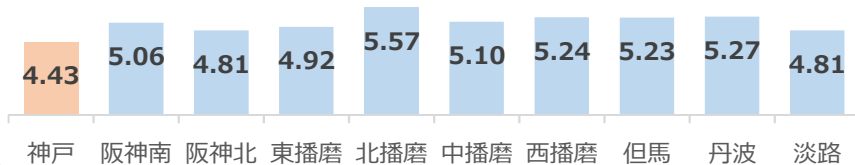
回答割合



- 知っている
- まあ知っている
- どちらともいえない
- 知らない

地域別

地域による差は最大1.14とやや大きく、**神戸地域が最も低くなっている**



■主な県の取組み

- コロナ禍等による経済状況悪化等のリスクに備え、コロナ禍前の融資枠の1.5倍となる5,000億円を融資枠として確保し、中小企業の資金繰りを支援
- 地域の金融機関による事業者への伴走支援（経営改善計画の作成等）に対する補助事業を創設。金融機関と協調して中小企業の経営力強化を促進（R4:12,000者、R5:継続8,000者・新規2,000者を支援）
- SDGsの視点から地場産業のブランド価値を高め、地場製品の魅力向上を図るため、産地組合のSDGsへの取組を新たに支援（R4:13産地）
- 県内4カ所の「スマートものづくりセンター」において、先端技術を活用した中小企業の技術開発、製品開発を支援（R5.2時点 技術相談・指導件数1,306件）
- 県内4カ所の生きがいごとサポートセンターで、コミュニティ・ビジネスでの起業を促進する「コミュニティジョブ支援事業」を実施（R5.2時点73団体が起業）

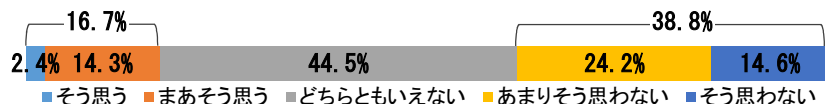


豊岡かばん（漁網再生生地を利用した鞆）



製造工程をIoTで見える化（スマートものづくりセンター）

問 33 お住まいの地域の企業に活気があると思いますか

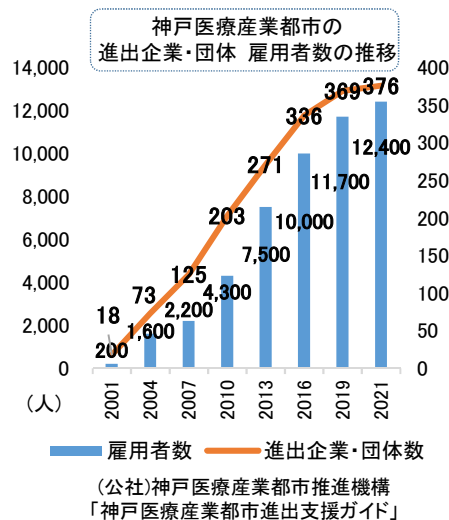


地域の企業に活気があると「思う」「まあそう思う」と回答した人は全体の16.7%にとどまっており、「そう思わない」「あまりそう思わない」の38.8%を下回っています。

◆産業の集積－神戸医療産業都市

最先端の研究機関や高度専門病院、350を超える医療関連企業や大学が集積する神戸医療産業都市では、「医薬品」「医療機器」「再生医療」を重点分野に、世界を変える革新的な医療技術の開発が進められています。

神戸市に本社を置く医療用検査機器・試薬メーカーのシスメックス株式会社と川崎重工業株式会社の共同出資により設立された株式会社メディカロイドにより、日本発の手術支援ロボット「hinotori™ サージカルロボットシステム」が開発されるなど、高い競争力を持った健康・医療産業の基盤ができつつあります。



ニュースバル(中型放射光施設)は、次世代半導体の研究開発の世界的拠点

◆兵庫の強み

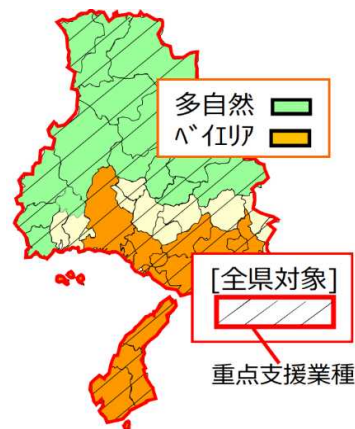
持続可能でいきいきとした地域づくりには、地域を牽引する産業の存在が重要です。兵庫県には、SPring-8、スーパーコンピュータ「富岳」、ニュースバル等の世界有数の科学技術基盤が立地するなど、産業の集積の基礎となる多くの強みを有しています。

◆本社機能の地方移転の流れ

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、過密な首都圏に本社機能や主要拠点が集中することのリスクが改めて認識されたことなどで、2021年に、首都圏から地方へ、本社または本社機能を移転した企業は、351社と過去最多となりました。

2025大阪・関西万博を契機に、人、モノ、投資の動きが一層活発になることが見込まれています。県内各地への立地促進に向けた環境整備を進めていくことが重要です。

産業立地条例の改正により、更なる企業立地を促進



投資促進地域の設定

○ベイエリア地域

- ・万博、カーボンニュートラルポート形成計画を推進
- ・MICE機能等を有する高級ホテルに対する設備補助を実施

○多自然地域

- ・交通利便性・労働力供給面で立地条件が不利な地域への支援を強化

重点支援業種（例）

- 新エネルギー
 - ・次世代エネルギー(水素等)
 - ・蓄電池(リチウムイオン電池)
- ロボット産業
 - ・遠隔制御技術
 - ・自動配送ロボット
- 健康医療産業
 - ・手術支援ロボット
 - ・3Dバイオプリンタ
- 半導体産業
 - ・次世代半導体
 - ・半導体製造装置
- 航空産業
 - ・航空機部品
 - ・ドローン、空飛ぶクルマ

設備補助率

地域	通常	重点支援業種	
		水素関連	その他
多自然	5%	7%	10%
ベイエリア	5%	7%	10%
一般	3%	7%	10%

設備補助率の引き上げにより次世代成長産業を重点的に支援

中小企業が立地しやすい環境を一層整えるため設備補助要件を緩和

設備補助の投資額要件

区分	地域		区分	全県
	一般地域	促進地域		
大企業	20億	1億	大企業	20億
中小企業	10億	1億	中小企業	1億



自立した経済が息づく社会

進化する御食国

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「農林水産業の活気」については、地域による差もあまりなく、全体的にやや低い評価である。
- 「地元や県内でとれた農林水産食材を買っているか」については、全体としては7.31と高いが、18～29歳の地産地消意識がやや低めである。
- 「食品廃棄物を出さない暮らし」については、すべての年代・地域で8点台と高い水準で、食の分野での環境意識の高まりが感じられる。

設問35

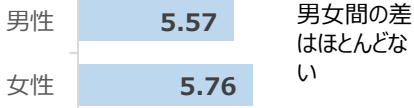
地元や県内の農林水産業に活気があると思いますか

全体平均

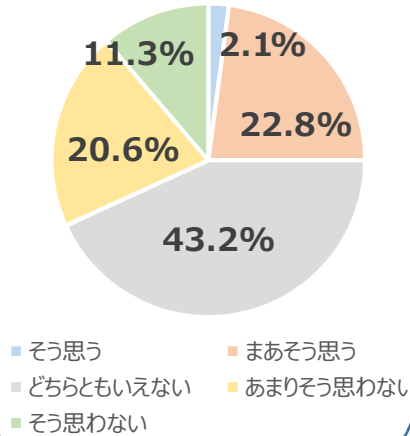


5.68

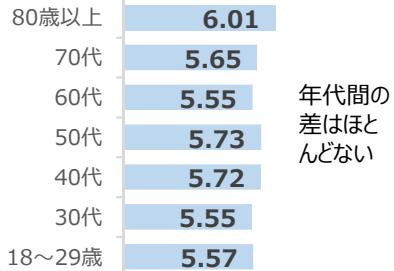
性別



回答割合

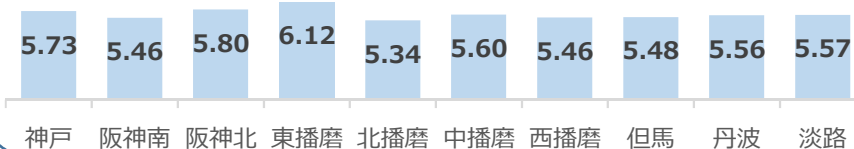


年齢別



地域別

地域による差は最大0.78と小さく、都市部と地方部といった違いは見られない



設問36

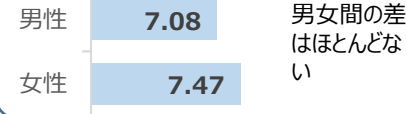
あなたは、地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っていますか

全体平均

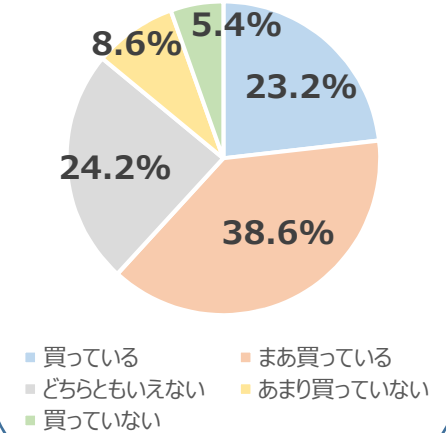


7.31

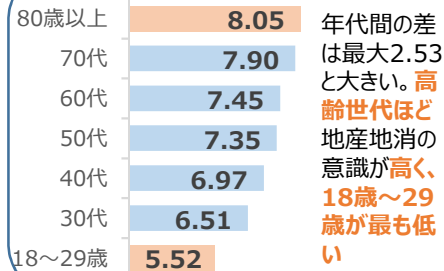
性別



回答割合

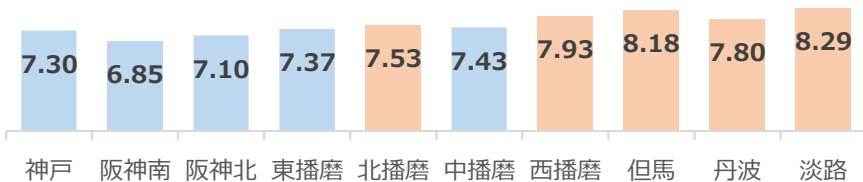


年齢別



地域別

地域による差は最大1.44とやや大きい。都市部と比較して地方部が高い





自立した経済が息づく社会

進化する御食国

■兵庫のゆたかさ指標

設問37

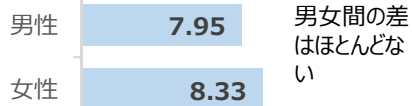
あなたは、食品廃棄物をできるだけ出さない暮らしを心がけていますか

全体平均

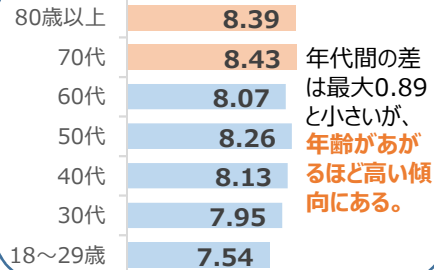


8.18

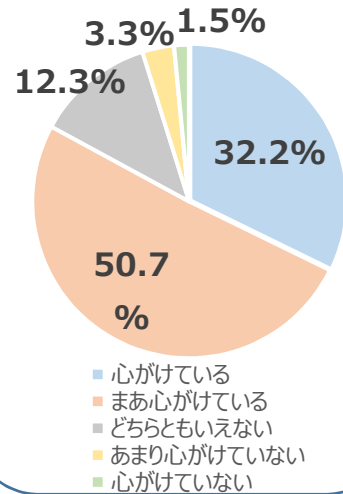
性別



年齢別

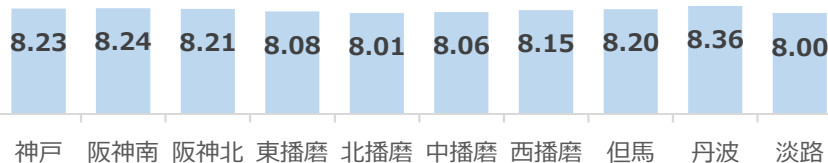


回答割合



地域別

地域による差はほとんどなく、都市部と地方部といった違いは見られない



■主な県の取組み

- 県産県消の推進のため、学校給食アドバイザーの派遣や学校給食ファームの育成による県産食材の安定供給体制の構築など「学校給食への県産食材供給拡大対策」をスタート（R4:事業活用予定10市町）
- スマート農業技術の産地課題や企業情報などを集約・発信する専用サイトを開設(R4.11)し、スマート技術による課題解決や経営改善を推進
- 県農林水産業の持続的発展のため、農林漁業者のSDGsへの取組を推進する「ひょうご農林水産ビジョン2030×SDGs推進プロジェクト」を始動。事業者への啓発や現場での実践拡大を進め、取組内容を消費者等に広く発信（R4.10にセミナー2回、R5.2にシンポジウム1回）
- 但馬牛改良手法にゲノム情報解析を取り入れ、遺伝的多様性を確保しながら、高品質かつ生産性の高い但馬牛を造成（R4:1,630体のゲノム情報解析）
- 県産木材の活用のため、駅等の交通拠点施設に加え、多数の県民が利用する病院や商店街の共有スペース等の木質化を新たに支援（R4：幼稚園など6箇所）



環境モックン® 機器の実証 (スマート農業)



但馬牛 (城崎系の種雄牛：奥虎)



自立した経済が息づく社会

活動を支える確かな基盤

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「家庭で災害に対する自主的な備えをしているか」については、阪神淡路大震災の被害の大きかった神戸、阪神南、阪神北が6点台だが、その他の地域は5点台とやや低く、あらためて防災意識の底上げが必要である。
- 「治安がよく安心して暮らせる地域」についてはすべての地域で7点台と高い。
- 「便利な公共交通」については、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨の都市部が6～8点台であるのに対し、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路といった地方部が4点台と低い。

設問38

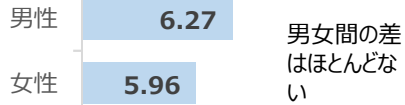
あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか

全体平均

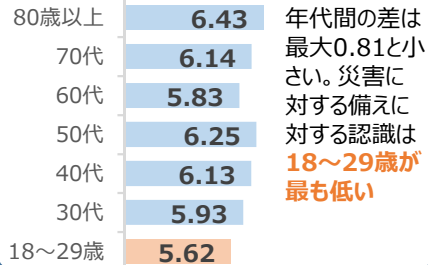


6.07

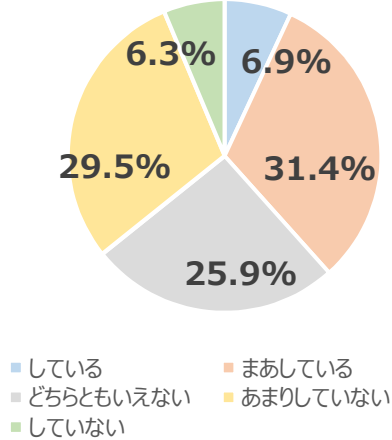
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大0.71と小さい。阪神淡路大震災で大きな被害のあった地域では6点を上回りやや高いが、その他の地域は5点台とやや低い



設問39

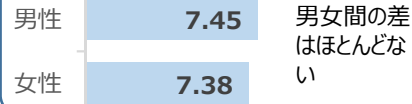
お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせると思いますか

全体平均

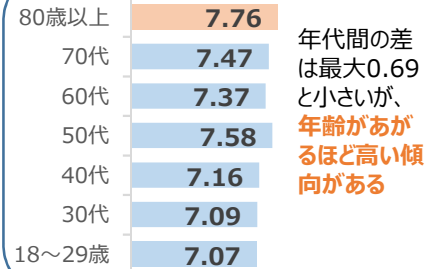


7.41

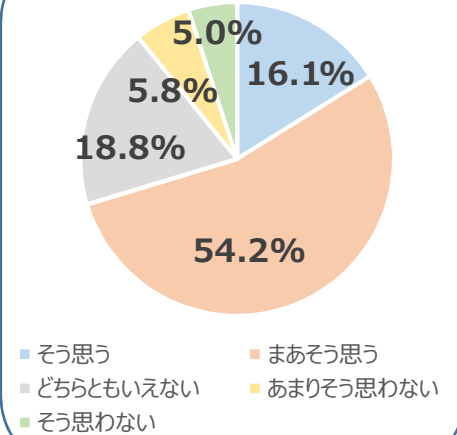
性別



年齢別



回答割合



地域別

地域による差は最大0.68と小さく、都市部と地方部といった違いは見られない





自立した経済が息づく社会

活動を支える確かな基盤

■兵庫のゆたかさ指標

設問40

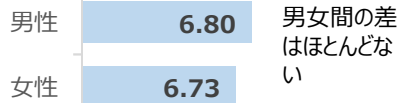
お住まいの地域の公共交通は便利だと思いますか。

全体平均

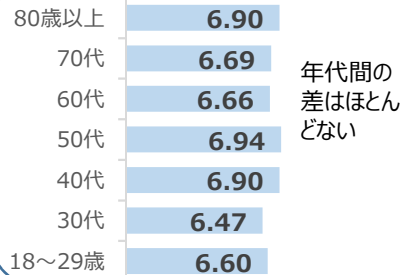


6.76

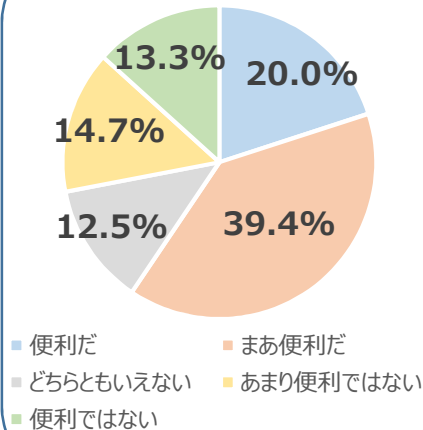
性別



年齢別

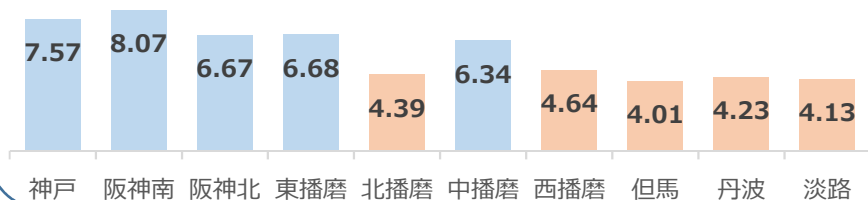


回答割合



地域別

地域による差は最大4.06と大きい。都市部が高く、**地方部が低い**



■主な県の取組み

- 地域課題をデジタル技術により解決するモデル市の取組を県・企業等が連携して支援するとともに、その取組成果を県下に広げる「スマートシティモデル事業」を創設（R4:姫路市、加古川市、三木市、三田市、加西市、養父市を公募によりモデル市に選定）
- 県土の骨格を形成し、県全体の発展基盤となる基幹道路八連携軸を構成する高規格道路ネットワークの早期整備を推進（R5.3末時点、全体延長916.5km中、開通済774.7km(84.5%)、整備中51.2km(5.6%)、未着手90.6km(9.9%)）
- 福良港海岸の湾口防波堤の整備など、地震・津波対策等の防災・減災対策を実施し、災害に強い県土づくりを推進
- 社会問題となった水上オートバイによる危険行為等への対策として、県条例の改正（R4.7.1施行）や、官民連携によるパトロール活動（R4.4～）などの様々な取組みを実施



東播磨道北工区（部分開通式典）



福良港湾口防波堤

5つのめざす社会



生命の持続を先導する社会

めざす姿⑬

カーボンニュートラルな暮らし 自然との共生が日々の暮らしに浸透し 地域と世界の持続可能性が高まる社会

めざす姿⑭

分散して豊かに暮らす 自然の豊かさを享受する暮らしが各地で営まれ 大都市集中が緩和した社会

めざす姿⑮

社会課題の解決に貢献する産業 兵庫発の社会課題を解決する産業で 暮らしの持続可能性を高め国内外を先導する社会



生命の持続を先導する社会

カーボンニュートラルな暮らし

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

○「自然環境が守られているか」「環境に配慮した購入行動をとっているか」については、すべての地域で6点台後半から7点台、「節電・省エネに取り組んでいるか」については、すべての地域で7点を超えており、環境意識の高まりが感じられる。

○年代別に見ると「節電・省エネに取り組んでいるか」「環境に配慮した購入行動をとっているか」については、10代・20代がもっとも低くなっており、若年層の環境意識をさらに高めていく必要がある。

設問41

お住まいの地域では、山、川、海などの自然環境が守られていると思いますか

全体平均



6.84

設問42

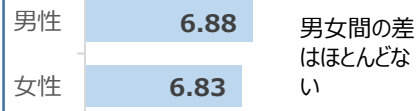
あなたは、日頃から節電・省エネに取り組んでいますか

全体平均

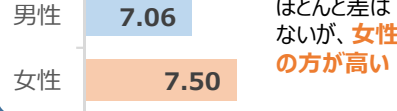


7.32

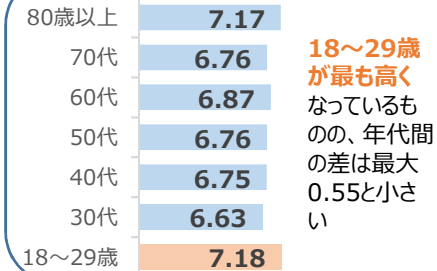
性別



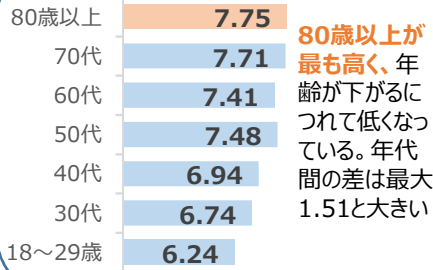
性別



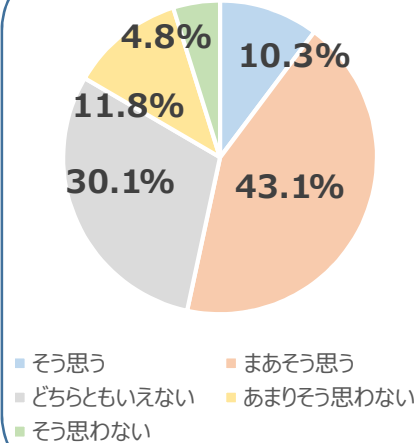
年齢別



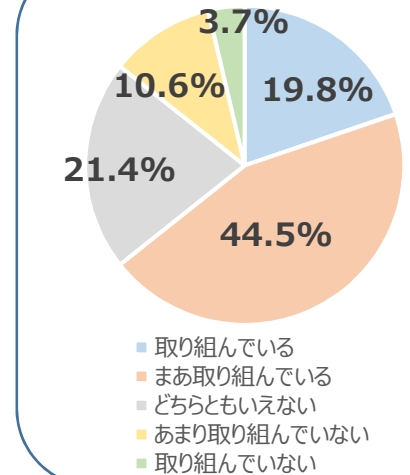
年齢別



回答割合



回答割合



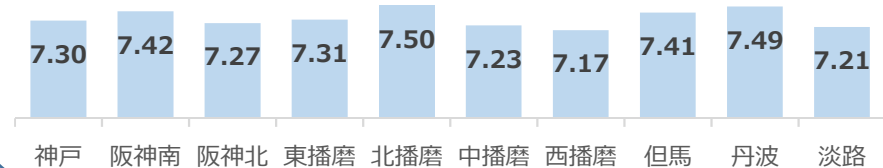
地域別

里山保全活動が活発な**阪神北地域が7.24と最も高い**が、地域による差は最大0.72と小さい



地域別

地域による差はほとんどなく、都市部や地方部といった違いは見られない





生命の持続を先導する社会

カーボンニュートラルな暮らし

■兵庫のゆたかさ指標

設問43

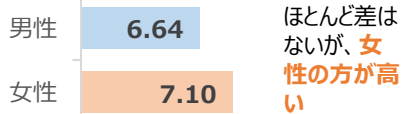
あなたは、製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいますか

全体平均

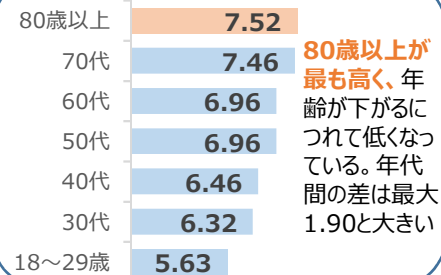


6.92

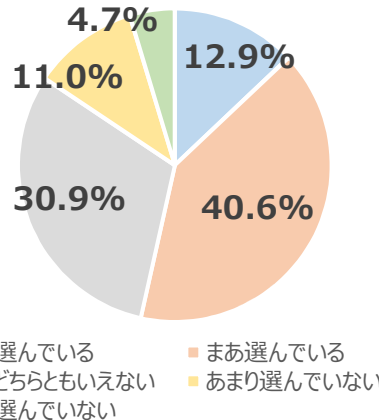
性別



年齢別

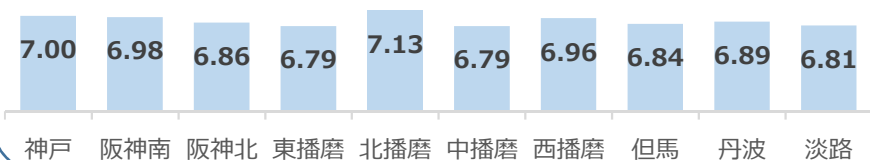


回答割合



地域別

地域による差はほとんどなく、都市部や地方部といった違いは見られない



■主な県の取組み

- 2050年の水素社会の実現に向け、産学官が連携する「ひょうご水素社会推進会議」を設置(R4.10)し、水素の利活用方策などの具体的な検討を推進
- 燃料電池モビリティの普及・促進を図るため、水素ステーション、パッケージ型水素供給設備、燃料電池バスの導入費用を支援 (R4:各1件採択済)
- ものづくり産業やエネルギー産業が集積する播磨臨海地域において、脱炭素化に向けた港湾機能の高度化等をめざし、「播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会」を設置 (R4.7)
- 環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトの推進を目的とした本県初のSDGs債（グリーンボンド）を発行（国内市場公募SDGs債で過去最多の218件の投資表明があり、R4.9に発行条件決定後、即日完売）



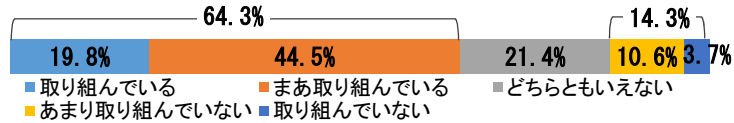
ひょうご水素社会推進会議



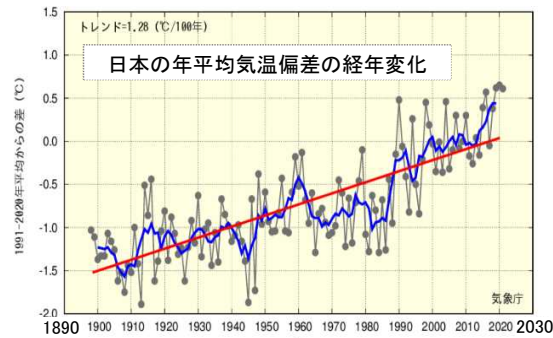
燃料電池バス

トピックス 水素社会の実現

問 42 あなたは、日頃から節電・省エネに取り組んでいますか



「そう思う」「まあそう思う」と回答した人の割合は64.3%で、「取り組んでいない」「あまり取り組んでいない」の14.3%を大きく上回っており、省エネ・環境問題に関する関心の高さがうかがえます。



◆カーボンニュートラル

深刻化する地球温暖化により、世界的に異常気象や自然災害が増加し、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの削減－カーボンニュートラルの実現が急務となっています。

カーボンニュートラル

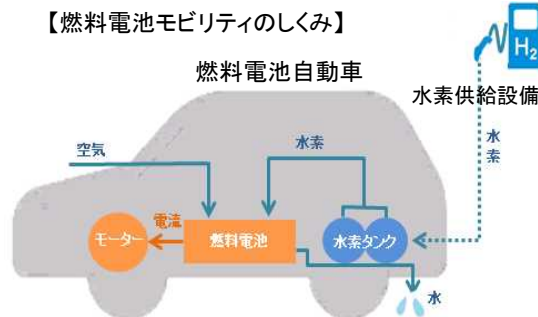
二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量（人為的なもの）から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること

◆GX(グリーントランスフォーメーション)と水素社会の実現

カーボンニュートラルの実現のためには、石油等の化石エネルギー中心の産業構造・社会構造を、クリーンエネルギー中心に転換するGX（グリーントランスフォーメーション）が必要です。クリーンエネルギーのなかでも注目を浴びているのが水素です。水素は、酸素と結びつけることで発電したり、燃焼させて熱エネルギーとして利用することができますが、その際にCO₂を排出しません。

日々の生活や経済活動などに水素を使うことが浸透した「水素社会」の実現が期待されています。

水素社会の実現に向けては、燃料電池自動車等の実用化段階にある水素アプリケーションの普及を進めるとともに、将来の水素大量消費時代を見据え、安価な水素の確保のためのグローバルサプライチェーンや国内での貯蔵や輸送のシステム構築を進めていくことが必要です。



脱炭素化の推進

○ 播磨臨海地域におけるカーボンニュートラルポートの形成

ものづくり産業やエネルギー産業が集積する播磨臨海地域において、温室効果ガスの削減を進めるため、世界に先駆けて水素利活用取組を推進する神戸港と連携し「播磨臨海地域カーボンニュートラルポート形成計画」を策定する（R5 半ば目途）

産業活動等のエネルギー転換を進める

- ・ 水素等のサプライチェーン拠点の形成
- ・ 地域の脱炭素化

【播磨臨海地域の特徴】

- ✓ 発電・鉄鋼・化学などエネルギー多消費型の産業が集積し、製造品出荷額は全国第2位
- ✓ 関西と瀬戸内の結節点

【製造品出荷額】

豊田市	14.7 兆円
播磨臨海地域	6.7 兆円
市原市	4.0 兆円
堺市	3.5 兆円
大阪市	3.5 兆円
横浜市	3.5 兆円

(工業統計調査 2021)

播磨臨海地域：明石市、稲美町、加古川市、高砂市、播磨町、姫路市、太子町、神戸市西区



神戸港 世界に先駆けた取組

- ✓ 世界初となる日豪間の液化水素運搬実証
- ✓ 水素専焼がスタービン発電実証

○ 水素社会の実現に向けた燃料電池モビリティの普及促進

- ・ 水素ステーション整備費に対する補助、整備方策の検討
- ・ パッケージ型水素供給設備の導入経費に対する補助
- ・ 燃料電池バス導入経費に対する補助



生命の持続を先導する社会

分散して豊かに暮らす

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「地域に愛着や誇りを感じるか」については、すべての年代で7点台と高く、すべての地域で6点台後半から7点台と、比較的高い点数となった。
- 「住んでいる地域をよりよくしたり盛り上げたりする活動に参加しているか」については、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨の平均が5.86、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の平均が6.26と、差は大きくないが、地方部が都市部より高い。
- 「ICTなどによりどこにいても便利に暮らせる社会になってきているか」については、平均6.54と6点台後半で、一定程度の実感は得られてきている。

設問44

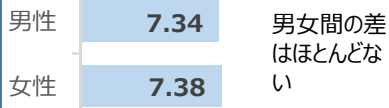
あなたは、住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか

全体平均

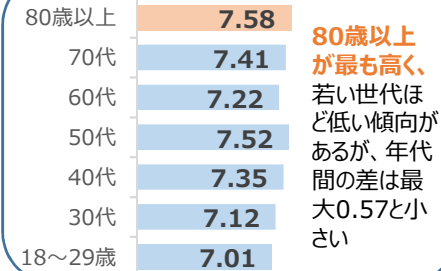


7.36

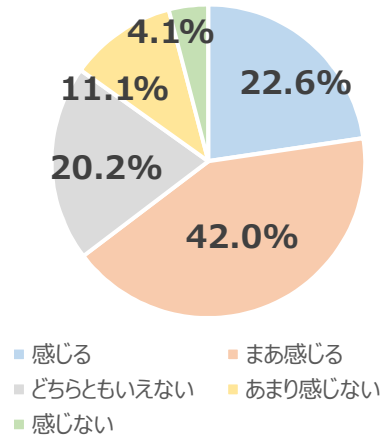
性別



年齢別

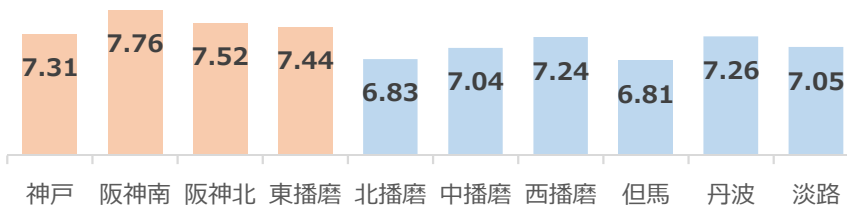


回答割合



地域別

地域による差は最大0.95と小さい。ばらつきはあるが、傾向としては都市部が高い



設問45

あなたは、住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと思いますか

全体平均

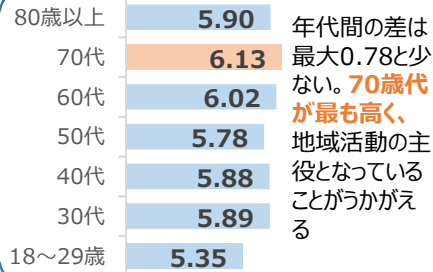


5.90

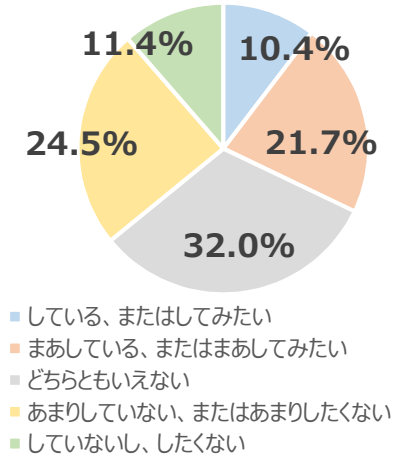
性別



年齢別

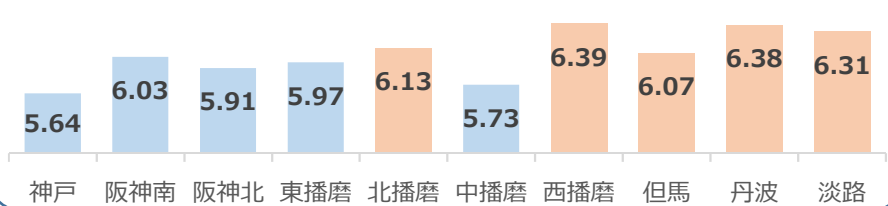


回答割合



地域別

地域による差は最大0.75と小さい。傾向としては地方部が高い





生命の持続を先導する社会

分散して豊かに暮らす

■兵庫のゆたかさ指標

設問46

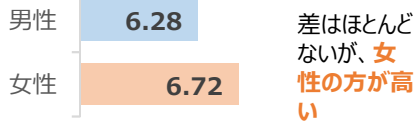
ICT（情報通信技術）などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると思いますか

全体平均

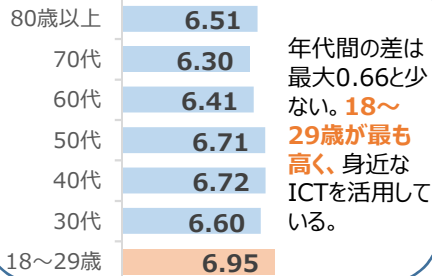


6.54

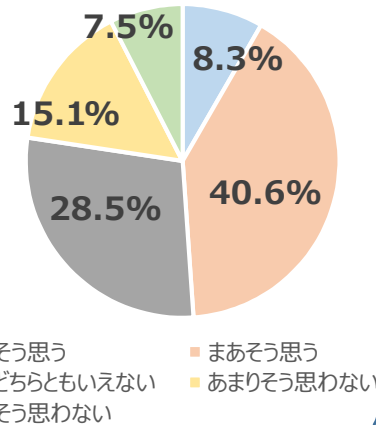
性別



年齢別

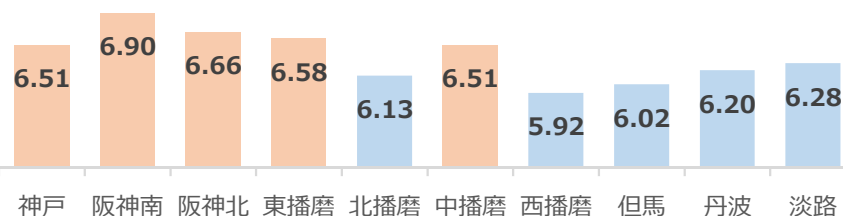


回答割合



地域別

地域による差は最大0.75と小さい。傾向としては**都市部が高い**



■主な県の取組み

- 多自然地域における地域の活性化やにぎわいの創出に向けた地域の主体的な取組を総合的に支援する「地域づくり総合支援事業」を実施（農業をテーマとした関係人口の拡大、移住促進交流イベントの開催、特産品開発、地域づくり計画の策定などに取り組む地域8地区を支援）
- 地域住民の日常生活や観光・交流による地域活性化に欠くことのできない鉄路を維持するため、関係市町、事業者、有識者の意見を幅広く聴取する「JRローカル線維持・利用促進検討協議会」及び「路線ごとのワーキングチーム」を設置（R4.6）し、官民連携で利用促進策等の取組を推進
- ビジョン実現に向けた地域づくり活動等を行う団体を「地域ビジョン推進チーム」として支援
- 地域の担い手確保や経済活性化に向けて、新たな働き方(マルチワーク)による安定的な雇用環境を創出する「特定地域づくり事業協同組合」の設立を支援（県内初となる香美町・淡路市の2組合をR4.4に認定）
- 空家等を地方回帰の受皿として流通・活用することにより、移住、定住及び交流の促進並びに地域の活性化を図る「空家活用特区条例」を施行(R4.4)し、2地区を特区に指定（R5.3）

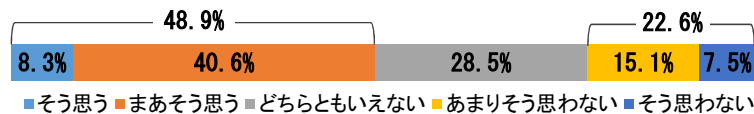


朝来市粟鹿地区
まちづくり計画プロジェクト
メンバー会議



香美町地域づくり事業協同
組合の認定証交付

問 46 ICT(情報通信技術)などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると思いますか

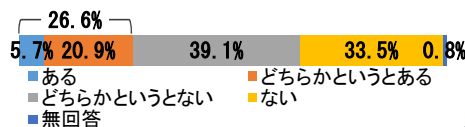


「そう思う」「まあそう思う」と回答した人の割合は48.9%と、「そう思わない」「あまりそう思わない」の22.6%を大きく上回っています。

コロナ禍で、テレワークやオンライン授業の導入が急速に進み、どこにいても働ける、学べる、暮らせることへの実感が広がってきています。

農山漁村地域に移住してみたいという願望があるか

令和3年度農山漁村に関する世論調査(内閣府)

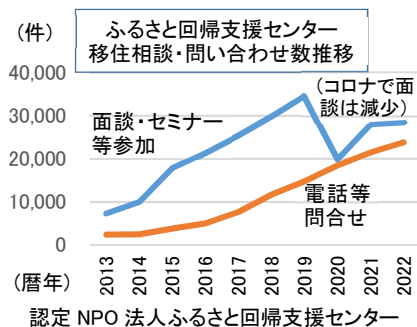


◆都市から多自然地域へ

生活の質の向上や豊かな自然環境などを求めて、都市住民の一定数は、多自然地域などへの移住希望を持っています。都市住民の26.6%が、農山漁村地域への移住願望が「ある」「どちらかというところ」と回答しています。

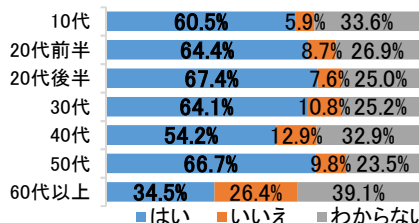
◆移住希望の増加

地方への移住を支援するふるさと回帰支援センターへの相談件数は年々増加しています。2022年の相談を2021年と比較すると、移住時期「今すぐ(1年未満)」が31.0%から36.1%に増加しています。また、移住先を想定した相談が増え、「その他(希望地未定)」が11.4%から3.8%に減少するなど、移住希望地が明確な本気度の高い相談が増えてきています。



兵庫県に戻ってきたいか

兵庫県 R3 年度転出者アンケート調査



◆若者世代の移住

同センターへの2022年の相談は、20代・30代が45.9%とほぼ半数をしめています。若者世代の移住者は、人口減少や高齢化のより進む地方部で、地域づくりの担い手として期待されています。

兵庫県へのUターンの意向も高く、移住の支援策を充実していくことが求められています。

移住支援の充実

○ ひょうご移住プロジェクト

“ひょうご”とつながる情報発信、相談体制の充実、移住後のしごと支援まで、段階に応じたきめ細かな支援で移住を促進

Step 1 知る

・ひょうご e-県民制度による情報発信

ひょうごとつながる情報を発信

- ・若者・子育て世代のライターによる記事を毎日発信
- ・移住・関係人口イベントへの参加、掲載スポット訪問などで貯まる e-県民ポイント制度の運用
- ・交流から移住までの切れ目ない情報を発信する e-県民 Web サイト版の構築

・オンラインや、首都圏・大阪等での移住イベント開催

Step 2 探す

- ・カムバックひょうごセンター(東京・大阪・神戸)での移住相談体制の拡充
- ・市町や NPO 等と連携した相談の実施

Step 3 試す

・お試し移住、ワーケーションへの支援

Step 4 決める

・空家活用特区の創設により空家の流通・活用を促進

特区内の空家の届出を義務化し、流通促進(空家バンクへの登録サポート等)、規制の合理化(活用に必要な用途変更等)、活用支援(改修や跡地活用のための除却を助成等)を軸として、空家の活用を促進

・起業・創業支援、マルチワークの拡大

- ・多自然地域(但馬、丹波、淡路)等に地域しごとサポートセンターを開設し、地域課題の解決を目的とした起業等を支援
- ・過疎地域等において、複数の仕事を組み合わせた新たな働き方(マルチワーク)による安定雇用を創出し、移住促進による地域づくり人材を確保する特定地域づくり事業協同組合の設立を支援

移住の4フェーズ



生命の持続を先導する社会

社会課題の解決に貢献する産業

■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「生活の不便さを補うサービスが増えているか」について、もっとも低いのは但馬の5.30、もっとも高いのは阪神南の6.34で、ばらつきはあるが、概して都市部の方が高い。
- 「社会を先導する新しい産業」については、平均5.76と低く、共創による新たなイノベーションや、先端分野での技術開発支援などを促進していくことが重要である。

設問47

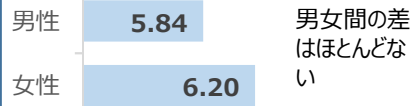
お住まいの地域には、生活の不便さを補うさまざまなサービスが増えていると思いますか

全体平均

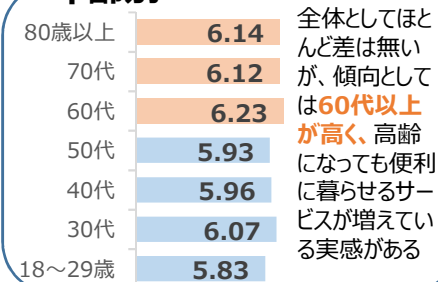
6.06



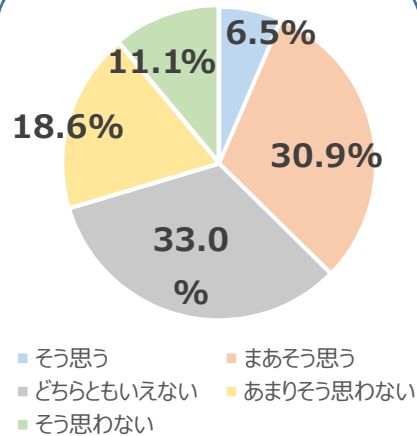
性別



年齢別

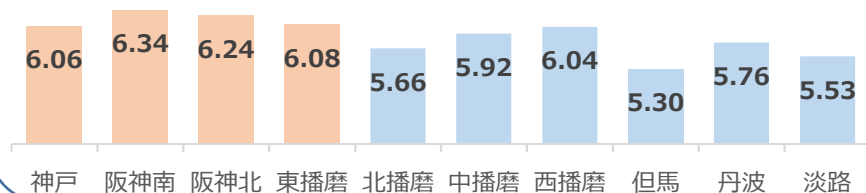


回答割合



地域別

地域による差は最大1.04とやや大きい。傾向としては**都市部が高い**



設問48

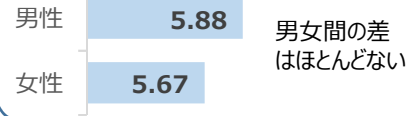
兵庫県は、社会を先導する新しい産業が活発な県だと思いますか

全体平均

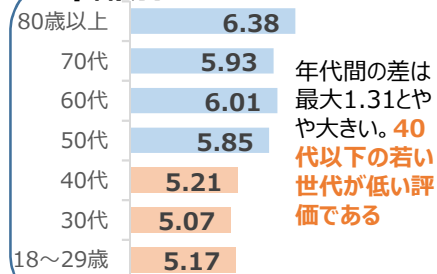
5.76



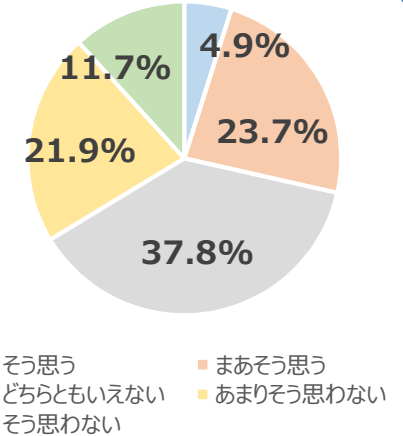
性別



年齢別

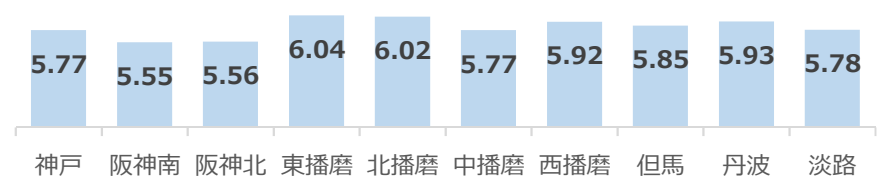


回答割合



地域別

地域による差はほとんどなく、都市部や地方部といった違いは見られない





社会課題の解決に貢献する産業

■ 主な県の実践

- グローバルなSDGs課題解決に挑むスタートアップの事業構築・海外展開を、県・神戸市・UNOPS（国連サービス機関）連携で支援する「SDGsチャレンジ事業」を実施(R4:14社採択)
- 民間企業のアイデアやノウハウを活かし、デジタル技術などで地域課題の解決に取り組む「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」を開始（R4年度は鳥獣害被害×音と光の技術による忌避対策等6件のプロジェクトを展開）
- 次世代産業分野（航空・宇宙、環境・水素等新エネルギー、健康・医療）への中小企業等の参入を促進するため、関係分野での新製品の開発を支援(R4:10件採択)
- ドローンの社会実装を加速させるため、先進県である兵庫県において、全国初となる「第1回ドローンサミット」を開催（併催イベント含め約13,000人が来場・視聴）
- SDGsの推進を県内自治体・企業・団体等の参画・連携により進める「ひょうごSDGs Hub」を設立。「ひょうご公民連携プラットフォーム」の枠組みを活用した連携事業や情報発信など、社会課題の解決や地域活性化を様々なステークホルダーの連携によりめざす取組をスタート（R4.10）



SDGsチャレンジ
Boot Campの様子

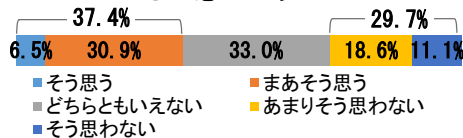


ドローンサミット

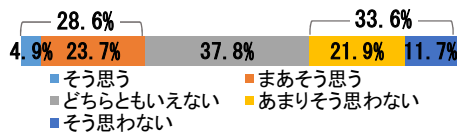
トピックス

社会課題を解決する産業—公民連携による SDGs の推進

問 47 お住まいの地域には、生活の不便さを補うさまざまなサービスが増えていると思いますか



問 48 兵庫県は、社会を先導する新しい産業が活発な県だと思いますか

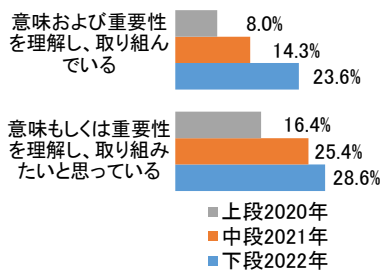


生活の不便さを補うさまざまなサービスが増えていると「思う」「まあそう思う」人の割合は 37.4%で、「そう思わない」「あまりそう思わない」の 29.7%を上回っていますが、兵庫県は社会を先導する新しい産業が活発な県だと「思う」「まあそう思う」人の割合は 28.6%で、「そう思わない」「あまりそう思わない」の 33.6%を下回っています。

コロナ禍を背景に、フードデリバリーや配食サービス等の食品宅配市場が拡大するなど、生活の不便さを補うサービスが増加していることは実感されていますが、高齢者等の日常の足となる完全自動運転車の実用化などはまだ遠く、先端産業などによる社会課題の解決については、あまり実感されていないことがうかがえます。

SDGs に関する企業の意識調査 (2022 年) ㈱帝国データバンク

SDGs への理解と取り組み



◆SDGs への取組

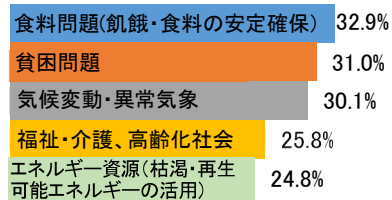
SDGs は、持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標であり、我々一人ひとりが考え、行動を起こし、周りと一緒に取り組んでいく必要があります。

SDGs の理念や取組は、社会に着実に浸透してきています。企業にとっても、企業イメージの向上などに加え、社会課題の解決に向けた行政等とのパートナーシップのなかで、共創による新事業の創出など、新たなビジネスチャンスにつながるものと期待されており、積極的に SDGs に取り組む企業が年々増加しています。

◆連携による SDGs の推進

食料生産の安定化をめざすスマート農業技術の普及、気候変動に対応するためのカーボンニュートラルの実現など、複雑化・高度化した社会課題に対応するためには、民間のノウハウや技術、資金等の活用が不可欠です。SDGs を共通の目標として、社会を構成する多様な主体が連携し、ともに取り組んでいくことが重要です。

【重要度の高い社会課題】(上位5)

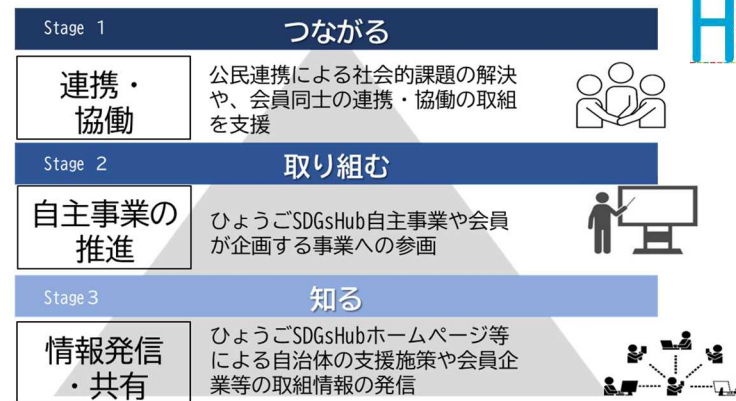


SDGs・社会課題に関する意識調査(2022 年度) 損害保険ジャパン㈱

公民連携による SDGs の推進

○ ひょうご SDGs Hub

多様な主体が連携し、社会的課題の解決と地域活性化の両立を図る公民連携組織として、「ひょうご SDGs Hub」を設置



○ SDGs 公民共創プロジェクトの展開

兵庫県と県内経済団体がそれぞれのリソースを持ち寄り、10 の「SDGs 共創重点テーマ」をベースに共創事業を展開。社会課題と企業のノウハウをマッチングし、課題解決と SDGs の実現をめざす

- ① 2025 大阪・関西万博「ひょうごフィールドパビリオン」の展開
- ② カーボンニュートラル社会の実現
- ③ スタートアップによる社会課題の解決
- ④ 陸と海のサステナブル産業化
- ⑤ 持続可能な多自然地域づくり
- ⑥ Well-being 兵庫の実現
- ⑦ ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ⑧ 兵庫五国の文化・産業に根ざした地域産業のリブランディング
- ⑨ 次代の人づくり
- ⑩ 社会におけるスポーツの価値向上

